

2 ✓

大樞事次々実質的ニ休張スルニトナシ 天皇ノ尊嚴ノ高ニカガキ
キコトナレバ何モ及テ理ニテ事スルニ此ノ現任ノ習慣
(Recent practice) ノ踏襲ニテ差支ヘナシ
(二) 批准書及全權委任狀ノ署名ニ付テハ 大皇ガ之ヲ署名在スル
ルニヤニトテ署名セザルニ差支ヘナシ
(三) 修訂條約ノ秘密ニシテ要ニ関シテハ午茶ノ會議ニ於テ印付アリ
タルニ際テ口對ニトナカランハ口對ガ印付下九條ノ目的ナリ
ト述ブ 仍カニ(ニ)ニ関シテハ協議ノ結果
第ニ案ヲ五ノヨリ 大皇ヲ削リ其ノ他ノ官吏ノ任免ノ次ニ及
大皇ノ全權委任狀 並ニ信任狀 (Recent practice) other officials and
of full powers and credentials of Ambassadors as provided
for by Law) ヲ加入同條ノ次ニ 榮典ノ授与ノ次ニ(一)
号トシテ 批准書及法律ノ定ムル其ノ他外交文書ノ認證 (

外務省

0427

大正九年
外務省
八月

新憲法草案ニ関スル會議ノ件 (第二次會議第三次) (第四案)
本件ニ関シテ最モ四月二日總司令部ニ於テ第一次會議ヲ行
ヒタルガ其ノ後檢討ノ結果尚修正ノ要ニ關シテ生じた事以テ
四月九日入江塔制向長官、依藤同次長及川原運送官總司令
部、政信部、ケイライ、大佐及ハヤシイ中佐ト別添
便向書ニ關シテ第一次會議ヲ行ヒタル處其ノ要點ハ一
一、同日午茶別添ノ外、外務省ニ交關スル憲法草案上ノ諸問
題ニ付白須中長、田中長官及川原運送官向長ト總司令部
政信部長、ケイトニイ准將ト同、會議行ハレタル處先ダ石ニ付
ヨリケイトニイ准將ノ意見トシテ
(一) 天皇ヲ條約ノ締約者トスルニトハ單ニ條約本文ニ於テ條約者トシ
ルニ限リテ、大日本天皇トシテ條約本文ニ於テ大日本國トシ
テ限リニテ、單ニ形式的問題ナルヲ以テ一向差支ヘナシ 新憲法

外務省

0426

RA'-0078

0231

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

4

尚カハ才五下云条 條約締結ニ對シ議會ノ承諾ノ手續ニ付何
 故法律案ノ裁決ノ手續ヲ採ラスニ算 協賛ノ手續ヲ採ラサル又石
 日本政府ハ案ニシテ自分事トシテ之ニ異議ヲ唱フルモノニ非カレ
 今於テ右ノ問題トナサル場合十分ノ理由ヲ用意シ置ク要アルヘ
 ト也

二次ニ別添ノ二條向書ニ付 條約審議ニ入ルル其ノ結左ノ通

(一) 才八条ノ解釋トシテ先カハ

(二) 才九条ノ皇室ニ對シテ臣民ノ為メ贈与スル金

(三) 個人トシテ天皇ニ對シテ贈与ハ考ヘラズ 若シ之ヲ認ムレバ三井財閥カ
 全財産ヲ個人トシテ天皇ニ贈与スル旨 御旨ヲ凡ソ贈与ハ議會ニ
 依リ議決セリ

(四) 皇室トハ皇族ヲ含ム又才條ハ個人トシテ皇族ニ對スル贈与ニ含ム
 (二) 天皇ト皇族ノ間ノ一切ノ贈与ハ議會ノ議決ノ要ナシ

外務省

0429

3

Meter of instruments of ratification and other documents
 documents as provided for by law) 卜規定スルニ
 ト也

(四) 次一切ノ條約 協定 協定ニ付議會ノ協議ニ必要トスル美
 (才六下云条) ニ至リテハ日本ニ於テハ條約ト協定ノ間ニ米國ニ於ケル如
 キ明瞭ナル區別ヲ設ク居ス例ヘバ防共協定ノ如キ也 所謂行政
 取極ニ非ザルモノモ條約ト謂ハズ協定ト呼バルトアリ何ヲ以テ行政
 取極 (executive agreement) 何ヲ以テ然ラザル協定 (agreement) ト
 スルカハ判定ニ困難ナル莫ク指摘セル也 議會ノ協賛ヲ必要トセザ
 ル協定ハ行政取極ニ限リテ之ヲ締結シ居リ 日本政府ハ何故右ノ如
 キ協定ニ對シ 本憲法ニ下ニ於テ議會ノ協賛ヲ必要トスル又予解ニ至
 ムモ單用語上ノ困難アルハ 協定ニ用テ前ハ之モ差支ヘナカルヘント
 ベタルヲ以テ右ノ如キ解釋ヲ下シ得ルレバ別ニ其ノ必要ナシト答フ

外務省

0428

RA'-0078

0232

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

ヲ得ト規定シ 第二項「本記録ハ...」
 (The record shall be... distributed to the public)
 一般ニ頒布スルニ付...
 修正シ其ノ後ニ... 秘密会ノ記録ノ...
 秘密ヲ要スルニ付... (circulation, excepting...)
 each part of process logs of secret session so may be
 allowed to be...
 議会自身ガ... 秘密会ニ差支ハ
 ナスト...
 (三) 分五十八条(其) 第三文「右ノ場合各院ハ...」以下ヲ全部削
 ル
 (註) 議会於テ人ノ召喚及... 各院ニ...
 第三十條(其)ニ...

0437

以上第二回会議ニ付... 四月十二日...
 第三回会議
 一先シ留保セラレタル諸英ニ付...
 (第五十三條) 第一項「秘密会ハ...」
 議決ニ依リ秘密会ノ開クニ付
 此處其ノ要英ヲ...
 本項但書トシテ
 但シ出

0436

16

承り
 四 最後ニ考方ヨリ
 上ノ條ニ於テハ
 前相死七ノ場合
 停給ヲ要スル場合
 其ノ疑同解ケズ
 一 總理死七ノ場合
 一 場合ハ何処ノ由ニ於テモ
 支ヘナカルベシト
 三十日以内ニ
 停給セザルガ
 右ノ如ク規定

0441

15

起算ニ六月後トスルニ付
 第九十七條ニ
 其ノ職ニ留ムル
 失フコトナル
 スト共ニ
 官吏トシテ
 憲法ニ合
 職ヲ喪失スベ
 下ニ於テハ
 職ヲ喪失スベ
 外務省

0440

RA'-0078

0238

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

ニテ尚モ参議院が
 十命ニ民主的基礎
 上ニ構成スルニ
 参議トスルニ
 三十九条ニテ

規約ハ如キ多角的多数ノ場合ハ如何、多クノ其ハ半面カキ
 批准ヲ行フニ拘ラス之ヲ取存シタルニ非ズ
 議ノ参向、實ハ右ノ如キ場合ニ備ハルルニ如キ規定ヲ設ケ
 如何トノ意見ハ如何ナル者ニリト別録不ス
 ル松室トシテ先方ニ提出スルハ一読ノ上ニ其ノ議合解散ニ備ハ
 斯ル規定ヲ他討必要トスルニハ參議院ニ其ノ議合職能ヲ
 代更行セシムルヲ最モトスルニ當リ委員會ニ設置スル事ハ最モ
 自令ノ私案トシテ如何ニ提議セ
 不第(其)參議院解散ノ場合參議院同時ニ閉会スル後ニ
 但書トシテ「但シ内閣ハ國策非常ノ際參議院ノ非常委員會
 求ムルニ得」(The Council, except that the Cabinet
 may in time of national emergency constitute the House of
 外務省

0442.

Councillors in emergency session) 下規定ノ第二項ニ
 亦項但書ノ字急集會ニ於テ採リシル措置ハ臨時ニモト
 レ其ハ七合議院後十日以内ニ衆議院ノ同意ヲ得場合ハ其
 効力ヲ失フニトス (No action except at such session
 shall be provisional and shall become null and
 void, unless agreed to by the House of Representatives
 within a period of ten (10) days after the opening of
 a special session of the Diet
 然レハ如何ニ在リテ如何ニ提議セザルニ非ズ、其ノ議合スル
 ヤ、其ノ疑義ヲ如何ニ解スルニ必要トシテ如何ニ提議セザル
 之ハ實際ニ如何ニ提議セザルニ必要トシテ如何ニ提議セザル
 ナルニ自令トシテ如何ニ提議セザルニ必要トシテ如何ニ提議セザル
 金ナク協合備
 外務省

0443

一、此の場合、要スルニ非常ノ場合ノ解釋如何ニ依ルベシト云フ。右ノ
 英ヲ國執スルニ對シテ、折向先方ノ折出シタル際、良策ヲ求メト云フ。英
 外ノ案ノ其ノ儘採用スルコトトセリ。

一、第ニ四回會談

一、第ニ回會談ヲ以テ一應了シテ、要スルニ英ニ對シテ、決テ了セラル
 付、~~英ニ對シテ~~、度々ノ會談ニ於テ、決テ了セラル。前所ノ折入セル英文
 寫法草案ト共ニ、英ニ對シテ、三月六日發表セラルル憲法草案
 要綱ニ對シテ、文化シヨク、法案ト共ニ、總司令部ニ提出スルニ付、即
 答表ニ付テ了解ヲ求ムルコトセルガ、亦三回會談ニ於テ、英ガ願リニ對
 司令部トシテ、日本政府ガ本草案ノ字句變更ニ付、一々司令部ノ
 承認ヲ要スルコト云フガ如ク、印象ヲ受ケルコトヲ好ム。右ハ、今ノ日本自
 身ノ内題ニ對シテ、強調シ居リタル矣。尤モ、當方ニ對シテ、承認ヲ受ケル
 アリト云フニ、非ザルニ本草案起草ノ法律ニ鑑ミ、英ノ意向ノ變更ニ付テ

一、英方ノ「アドヴァイス」ヲ得ルカ、適者ナリト思料スルニ、他ナラズ、現ニ「五スラ
 イツナル」一字句ト共ニ、變更ニ付テ、英方トシテ、勝手ニ變更シ得タリ。ト
 應酬シタルニ對シテ、英方ニ對シテ、(尤モ、英方ニ對シテ、草案發表ニ際シ
 テ、總司令部ニ對シテ、非公式ノ下解ヲ求ムルニ止マ、且、發表ニ際シテ、總司
 令部ノ名ハ出サザルコトトセリ。(尤モ、英方ニ對シテ、若シ日本政府ニ於テ、英
 外ノ款スルニ、總司令部トシテ、英方ニ對シテ、非公式ノ結果、必要ナル修
 シ加ハ云々ト云フ如ク、發表スルニ、英方ニ對シテ、(尤モ、英方ニ對シテ、
 四月十五日、折向先方ニ對シテ、草案ト共ニ、英方ニ對シテ、修訂ニ對シテ、
 譯シ、總司令部ニ對シテ、英方ニ對シテ、修訂ニ對シテ、英方ニ對シテ、
 英方ニ對シテ、
 (英方ニ對シテ、凡テ、自然ノ人ハ、) (All natural persons are) ト
 アルヲ「凡テ、自然ノ人ハ、」ト改メ、
 英方ニ對シテ、了解ヲ得ズ、當方限リニ於テ、修訂ニ對シテ、英方ニ對シテ、
 外務省

0445

一、此の場合、要スルニ非常ノ場合ノ解釋如何ニ依ルベシト云フ。右ノ
 英ヲ國執スルニ對シテ、折向先方ノ折出シタル際、良策ヲ求メト云フ。英
 外ノ案ノ其ノ儘採用スルコトトセリ。

一、第ニ四回會談

一、第ニ回會談ヲ以テ一應了シテ、要スルニ英ニ對シテ、決テ了セラル
 付、~~英ニ對シテ~~、度々ノ會談ニ於テ、決テ了セラル。前所ノ折入セル英文
 寫法草案ト共ニ、英ニ對シテ、三月六日發表セラルル憲法草案
 要綱ニ對シテ、文化シヨク、法案ト共ニ、總司令部ニ提出スルニ付、即
 答表ニ付テ了解ヲ求ムルコトセルガ、亦三回會談ニ於テ、英ガ願リニ對
 司令部トシテ、日本政府ガ本草案ノ字句變更ニ付、一々司令部ノ
 承認ヲ要スルコト云フガ如ク、印象ヲ受ケルコトヲ好ム。右ハ、今ノ日本自
 身ノ内題ニ對シテ、強調シ居リタル矣。尤モ、當方ニ對シテ、承認ヲ受ケル
 アリト云フニ、非ザルニ本草案起草ノ法律ニ鑑ミ、英ノ意向ノ變更ニ付テ

一、英方ノ「アドヴァイス」ヲ得ルカ、適者ナリト思料スルニ、他ナラズ、現ニ「五スラ
 イツナル」一字句ト共ニ、變更ニ付テ、英方トシテ、勝手ニ變更シ得タリ。ト
 應酬シタルニ對シテ、英方ニ對シテ、(尤モ、英方ニ對シテ、草案發表ニ際シ
 テ、總司令部ニ對シテ、非公式ノ下解ヲ求ムルニ止マ、且、發表ニ際シテ、總司
 令部ノ名ハ出サザルコトトセリ。(尤モ、英方ニ對シテ、若シ日本政府ニ於テ、英
 外ノ款スルニ、總司令部トシテ、英方ニ對シテ、非公式ノ結果、必要ナル修
 シ加ハ云々ト云フ如ク、發表スルニ、英方ニ對シテ、(尤モ、英方ニ對シテ、
 四月十五日、折向先方ニ對シテ、草案ト共ニ、英方ニ對シテ、修訂ニ對シテ、
 譯シ、總司令部ニ對シテ、英方ニ對シテ、修訂ニ對シテ、英方ニ對シテ、
 英方ニ對シテ、
 (英方ニ對シテ、凡テ、自然ノ人ハ、) (All natural persons are) ト
 アルヲ「凡テ、自然ノ人ハ、」ト改メ、
 英方ニ對シテ、了解ヲ得ズ、當方限リニ於テ、修訂ニ對シテ、英方ニ對シテ、
 外務省

0444



第三十條 國民ノ權利義務ニ於テハ
 法律ノ最格ニ區別セラルル者現ニ極東委員會ニ於テ之モ其ノ法律ガ
 日本法ニ於テ如何ニ適用スルヤハ之ニ關シ照會シテ未ダ確定シ合部
 務シハ旧日本草案^{（草案）}其ノ趣旨ニ照シテ答ハルベキナリ 極東委員會
 ノ何レガ委員ガ此ノ案ニ對シテ有ル見解ニシテ
 日本人ニ限定スル如ク譯スルハ尙當ナラズト述ブ 依テ尙方ハ其ノ
 三条ニ對シテハ^{（草案）} 際 外人ノ除クテトモ方ハ了解シ居
 ルガ如何ト尙モ未ダ^{（草案）} 本条ハ人權ニ甚ク美列待遇ノ^{（草案）} 其ノ
 元凶^{（草案）} 甚ク美列待遇ノ^{（草案）} 其ノ^{（草案）} 從テ何レガ^{（草案）} 如ク修
 正ヲ必要トスルヤ了解シ居ルモ^{（草案）} 本条ニ對シテ右ノ如ク修
 正トニ別段交渉スルガ^{（草案）} 但シ其ノ他^{（草案）} 條ニ對シテハ問題ナリト述ブ
 又日本草案第三十條^{（草案）} 西民ト譯スル^{（草案）} 同條ノ多クカ
 ヲ以テ第三十條全文ニ付^{（草案）} 日英外交ヲ照會シ^{（草案）} 訂正ヲ要求

0447

第三十條 國民ノ權利義務ニ於テハ
 法律ノ最格ニ區別セラルル者現ニ極東委員會ニ於テ之モ其ノ法律ガ
 日本法ニ於テ如何ニ適用スルヤハ之ニ關シ照會シテ未ダ確定シ合部
 務シハ旧日本草案^{（草案）} 其ノ趣旨ニ照シテ答ハルベキナリ 極東委員會
 ノ何レガ委員ガ此ノ案ニ對シテ有ル見解ニシテ
 日本人ニ限定スル如ク譯スルハ尙當ナラズト述ブ 依テ尙方ハ其ノ
 三条ニ對シテハ^{（草案）} 際 外人ノ除クテトモ方ハ了解シ居
 ルガ如何ト尙モ未ダ^{（草案）} 本条ハ人權ニ甚ク美列待遇ノ^{（草案）} 其ノ
 元凶^{（草案）} 甚ク美列待遇ノ^{（草案）} 其ノ^{（草案）} 從テ何レガ^{（草案）} 如ク修
 正ヲ必要トスルヤ了解シ居ルモ^{（草案）} 本条ニ對シテ右ノ如ク修
 正トニ別段交渉スルガ^{（草案）} 但シ其ノ他^{（草案）} 條ニ對シテハ問題ナリト述ブ
 又日本草案第三十條^{（草案）} 西民ト譯スル^{（草案）} 同條ノ多クカ
 ヲ以テ第三十條全文ニ付^{（草案）} 日英外交ヲ照會シ^{（草案）} 訂正ヲ要求

0446

RA'-0078

0241

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan
 国立公文書館 アジア歴史資料センター
 Japan Center for Asian Historical Records
 National Archives of Japan

別添第一

Problems involved in the Draft Constitution
relating to Foreign Relations

I. Conclusion of Treaties.

(a) Contracting Party

Who is to be the Contracting Party? Emperor? or the Cabinet? Under the International usage and Practice, it appears usual to make the Sovereign Contracting Party and the Cabinet representing the State as Contracting Party has never been practiced in any countries. For example, in concluding a treaty with Great Britain the King of England will be the Contracting Party for Great Britain. If the Cabinet were to be the Contracting Party for Japan, this would look odd in view of usual reciprocity.

All treaties are to be negotiated by and decided upon by the Cabinet but as the Emperor being "the symbol of the State", as in the cases of the King of England and the King of Belgians, it appears in order to make him the Contracting Party. It may be preferable to make this point clear in the Constitution?

(b) Instruments of Ratification and "Full Powers"

Prior to the conclusion of a treaty, the plenipotentiary of one country is given a document called "Full Powers" signed by the head of state in order to be presented to the other signatory party.

Again, if the treaty is to be ratified, it requires of course the approval of the Diet, but "instruments of ratification" signed by the head of state are to be exchanged or deposited.

It

0449

23

<p>（第九十二條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p> <p>（第九十三條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p> <p>（第九十四條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p> <p>（第九十五條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p> <p>（第九十六條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p> <p>（第九十七條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p> <p>（第九十八條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p> <p>（第九十九條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p> <p>（第一百條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p>	<p>（第九十二條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p> <p>（第九十三條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p> <p>（第九十四條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p> <p>（第九十五條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p> <p>（第九十六條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p> <p>（第九十七條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p> <p>（第九十八條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p> <p>（第九十九條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p> <p>（第一百條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p>	<p>（第九十二條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p> <p>（第九十三條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p> <p>（第九十四條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p> <p>（第九十五條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p> <p>（第九十六條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p> <p>（第九十七條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p> <p>（第九十八條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p> <p>（第九十九條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p> <p>（第一百條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p>	<p>（第九十二條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p> <p>（第九十三條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p> <p>（第九十四條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p> <p>（第九十五條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p> <p>（第九十六條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p> <p>（第九十七條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p> <p>（第九十八條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p> <p>（第九十九條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p> <p>（第一百條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p>	<p>（第九十二條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p> <p>（第九十三條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p> <p>（第九十四條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p> <p>（第九十五條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p> <p>（第九十六條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p> <p>（第九十七條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p> <p>（第九十八條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p> <p>（第九十九條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p> <p>（第一百條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p>	<p>（第九十二條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p> <p>（第九十三條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p> <p>（第九十四條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p> <p>（第九十五條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p> <p>（第九十六條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p> <p>（第九十七條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p> <p>（第九十八條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p> <p>（第九十九條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p> <p>（第一百條）「由合ノ定ムル選舉ニ於テ其投票ノ票ハ一（一）</p>
---	---	---	---	---	---

外務省

0448

RA'-0078

0242

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

It seems proper also for the Emperor of Japan to sign them as purely a matter of form. If so, it appears proper to have an additional paragraph in Article 7 of the Constitution.

"Signing of instruments of ratification, full powers, credentials and other diplomatic documents as provided for by law."

II. Approval of treaties by the Diet.

There is no legislative precedent for requiring the approval of the legislative for all "Treaties, international conventions and agreements" (Draft Constitution, Article LXIX), instead of limiting them to, for instance,

- a. Treaties involving legislative matters
- b. Treaties imposing financial burdens
- c. Treaties of peace, or treaties for territorial changes, or other treaties of special importance, for example in U.S.A. the Chief Executive is authorized

to make international agreement without consulting the Legislative (called "Executive Agreement" in U.S.A.)

Necessity of concluding a treaty may arise when the Diet is not in session. Another reason is here to be found for the desirability of setting up a standing committee in the Diet.

別添
力二

Further Observations on the Draft Constitution

CHAPTER 1

- Article 8. (a) Does this article apply to gifts by the people to the Emperor?
- (b) It is interpreted that the article does not apply to gifts to the Emperor as a private individual.
- (c) Does "Imperial House" include members of the Imperial Family? Even if it does, it is understood that the provisions of the article does not apply to gifts to the members of the Imperial Family as private individuals.
- (d) How about gifts between the Emperor and the members of the Imperial family?

CHAPTER 3

Article 23. Are not "(Social) Security" and "public health" covered by "social welfare"? When listed side by side with "freedom, justice, and democracy" these two words seem somewhat unbalanced. Would not "social welfare" alone be sufficient here?

Article 28. As regards "deprived of life" it is unthinkable except for by criminal penalty. It is, therefore, desired to revise the present Article to read as follows:

"No person shall be injured, nor shall any person be deprived of liberty, nor shall any criminal penalty be imposed, except according to procedure established by law."

Article 35. We would like to delete the word "convicted" in paragraph 3 from the point of view of translation technique. The deletion would make no substantial difference.

CHAPTER 4

Article 43. We would like to delete the clause "except for half the members serving in the first term" and to put the following provi-

Problems involved
relating to foreign
Conclusion of the
Contracting (a)
Who is to be the
the Cabinet Under the
appears usual to make the
Cabinet representing the
been practiced in any con-
Treaty with Great Brit-
Contracting Party for the
to be the Contracting Party
in view of usual reciprocal
All treaties are
upon by the Cabinet but
the State", as in the case
King of Belgium, it app-
ing Party. It may be pr-
the Constitution
Instrument (d)
Prior to the co-
of one country is
signed by the head of a
other signatory party.
Again, if the
of course the approval
tion" signed by the
representative

RA'-0078

0243

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

sion among the Supplementary Provisions, as it is a temporary provision.

"The term of office for half the members of the House of Councillors serving in the first term under the present Constitution shall be three years. Members falling under this category shall be determined by lot as provided for by law.

Article 48. In order to clarify the relation with the next Article, would it not be better to revise the present Article to read "An ordinary session of the Diet shall be convoked once per year"?

Article 51. As in the case of the 2nd paragraph of Article 54, it is desired to make the 2nd paragraph the 2nd sentence of the 1st paragraph and to revise it to read "However, in order to deny a seat to any member, it is necessary....."

Article 53. (a) Would it not be better to alter the 2nd sentence to read, as in the case of Article 78, "However, a secret meeting may be held where a majority of two-thirds or more of those members present passes a resolution therefor"?

(b) In the 2nd paragraph, the phrase "distributed to the public" is understood to be covered by the word "published". Accordingly it is desired to omit the phrase. It would be necessary, if the alteration in (a) is made, to add after the word "published", the following clause: "excepting such parts as may be deemed to require secrecy".

Article 54. It is desired to alter the phrase "its rules and regulations pertaining to meeting and proceedings" in the 2nd paragraph to read "its rules pertaining to meetings and proceedings, and internal discipline".

Article 58. We would like to alter the 2nd sentence to read "In such cases, those who do not comply with the demands shall be punished in accordance with law".

0452

Note: It is considered better to let a court rather than the Diet to punish them.

CHAPTER 6

Article 73. Could not the phrase "and such other matters...." in the 1st paragraph be deleted as all the necessary items are enumerated in the first half of the paragraph?

Article 76. (a) In order to match the style of the present Article with that of the preceding Article, we would like to revise the 2nd and 3rd sentences to read as follows:

"All such judges shall hold office.....reappointment, provided that they shall be retired upon the attainment of the age of 70 years.

The judges of the inferior court shall receive, at regular stated intervals,....."

(b) It is desired to alter the phrase "The age of 70 years" in Article 75 and 76 to read "the age as fixed by law."

CHAPTER 7

Article 80. As for the 2nd paragraph, we would like to omit it, since it is considered as a matter of course.

Article 84. (a) The phrase "the hereditary estates" in the present Article is understood to mean the property, personal or real among the property of the Emperor to be handed down with the hereditary Imperial Throne.

(b) If so, can this phrase be interpreted not to include the private property of the Emperor (cars, furnitures, scrolls and paintings and villas, etc. for the daily use of the Emperor)?

(c) Furthermore, can the phrase "All property of the Imperial Household, other than the hereditary estates" in the present Article be interpreted not to include the private property of the Emperor?

0453

RA'-0078

0244

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

CHAPTER 10

Article 94. We would like to make the 2nd paragraph an independent article (Article XCV).

CHAPTER 11

SUPPLEMENTARY PROVISIONS

It is desired to add a new provision and transfer provisions from other Chapters and rearrange them as follows:

Article XCVI. This Constitution shall be enforced as from the day when the period of six months will have elapsed counting from the day of its promulgation.

Laws necessary for the enforcement of this Constitution may be enacted, the election of members of the House of Councillors and the procedures for the convocation of the Diet and other preparatory procedures necessary for the enforcement of this Constitution may be taken before the day prescribed in the preceding Paragraph.

Article XCVII. No peerage shall extend beyond the lives of those now being, nor right of peerage shall from this time forth embody within itself any national or civic power of government.

Article XCVIII. If the House of Councillors is not constituted before the effective date of this Constitution, the House of Representatives shall sit as the Diet on that date and until such time as the House of Councillors shall be constituted.

Article XCIX. The term of office for half the members of the House of Councillors serving in the first term under this Constitution shall be three years. Members falling under this category shall be determined in accordance with law.

Article C. The Ministers of state, members of the House of Representatives and all other public officials in office at the time of the enactment of this Constitution shall not forfeit their offices automatically on the effective date of this Constitution unless

0454

otherwise specified by law.

When, however, successors are elected or appointed under the provisions of this Constitution they shall forfeit their offices as a matter of course.

0455

RA'-0078

0245

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

別添
力三

At our last conference, in regard to the dissolution of the House of Representatives in cases of unexpected calamities we understood that you recognized that such cases could be disposed of by the emergency powers of the Cabinet. This could be interpreted to mean:

- (a) Without particular delegation of law a power superseding the constitution or
- (b) By a delegation of the law to assign such power beforehand to the cabinet

If we are to accept the first interpretation (a) it would be a formal contravention of the constitution and might be construed further as trampling on the constitution and to give rise to the dangers of a dictatorship. So long as the necessity for steps against unexpected natural calamities are expected, the setting down of the methods of such steps under stringent terms in the provisions of the constitution must be considered to be constitutional as well as democratic. Against such queries what is the answer?

If however the second interpretation (b) is to be accepted although the delegation of power by law is possible in regard to general laws, there is an opinion rather than delegating law on a large scale it would be more appropriate to provide regulations in the Constitution for meeting such cases and to reserve stern limitations in the interpretation thereof.

In financial measures there are a few doubtful points. For example, what steps should be taken when cases arise which necessitate the disbursing of relief expenditure for war-sufferers in excess of the budget?

In

0456

In respect of the regulations pertaining to the Budget in this draft Constitution it is considered that such assignment of power cannot be effected even by law. In the Draft Constitution there are regulations concerning the reserve fund but here again there are limitations, and what can be done when necessity arises of disbursement in excess of the amount?

Again when the House of Representatives is dissolved without the budget being formed, how will the budget be drawn up? Advice is sought in seeking solutions to these problems.

CHAPTER 8

Art. 87, Paragraph 2.

In regard to the election by direct popular vote of Prefectural Governors, in view of the present state of this country which has not seen the firm establishment of political parties as yet, there is an opinion that for the following difficulties which can forseen indirect election is desirable that is to say:

- (a) Large expenses are required to carry out election campaigns among several millions of electors. Persons cannot run for candidacy unless considerably wealthy. This will mean that it would be difficult to expect persons of high character to run for elections.
- (b) In this election although it is considered that persons obtaining an absolute majority of votes should be elected, in large prefectures, the votes will be widely scattered over the respective candidates and in many cases would require re-elections. In such a case complicated procedures will be repeated over a wide area.

0457

RA'-0078

0246

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

別添
書
四

Further Observations on the Draft Constitution

Article VII. We would like to revise Item 5 to read as follows:

Attestation of the appointment and dismissal of Ministers of State and other officials as provided for by law, and of full powers and credentials of Ambassadors and Ministers.

Article LXXXIV. At our last conference, we understood that the word "estates" should be interpreted to include personal property. In the Japanese text, therefore, we have to use an expression to that effect. However, as it appears the word "estates" is slightly ambiguous here, we would like to use the word "property" in its stead.

0458

別添
書
五

CHAPTER 11
SUPPLEMENTARY PROVISIONS

Article XCVI. This Constitution shall be enforced as from the day when the period of six months will have elapsed counting from the day of its promulgation.

The enactment of laws necessary for the enforcement of this Constitution, the election of members of the House of Councillors and the procedure for the convocation of the Diet and other preparatory procedures necessary for the enforcement of this Constitution may be executed before the day prescribed in the preceding paragraph.

Article XCVII. As regards those who hold peerage on the effective date of this Constitution, their title shall remain valid for their lives, but no right of peerage shall from this time forth embody within itself any power of government.

Article XCVIII. If the House of Councillors is not constituted before the effective date of this Constitution, the House of Representatives shall sit as the Diet on that date and until such time as the House of councillors shall be constituted.

Article XCIX. The term of office for half the members of the House of Councillors serving in the first term under this Constitution shall be three years. Members falling under this category shall be determined in accordance with law.

Article C. The Ministers of State, members of the House of Representatives and judges in office on the effective date of this Constitution, and all other public officials who occupy positions

0459

RA'-0078

0247

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

corresponding to such positions as are recognized by this Constitution shall not forfeit their positions automatically on the effective date of this Constitution unless otherwise specified by law. When, however, successors are elected or appointed under the provisions of this Constitution they shall forfeit their positions as a matter of course.

0460

別添
カ
シ

(a) When it is impossible to convoke the Diet as a result of the dissolution of the House of Representatives or under other unavoidable circumstances, the Cabinet may take emergency measures provisionally under such conditions as law may prescribe regarding the matters which require the decision of the Diet. In this case the Cabinet shall obtain the approval of the Diet for such provisional measures at the following session.

(b) In case where it is impossible to convoke the Diet as the result of the dissolution of the House of Representatives or under other unforeseen circumstances the Cabinet may, in accordance with such conditions as are prescribed by law, take emergency measures regarding the matters for which the decision of the Diet are required.

Such measures shall be provisional and shall become null and void unless agreed to by the House of Representatives within a period of ten (10) days after the opening of the next session of the Diet.

0461

RA'-0078

0248

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

臨時事務

政治部長

副部長

政課長

宇山

終戦連絡中央事務局政治部長

新意法草案修正ニ關スル會談ノ件（第五次）

本件ニ關シテハ四月十五日ノ第四次會談ヲ最後トシ同十八日新意法草案發表ノ連ヒトナリタルガ翌十九日總司令部政治部「ケーデー」大佐ヨリ白州中央事務局次長ニ對シ今回發表ノ日本文草案ニハ總司令部ノ了解事項以外ニ日本政府ニ於テ惡意ヲ以テ原案ヲ變更セリト認メラルル節アリ極メテ困惑シ居ル旨傳ヘ來レリ、依ツテ同日佐藤法制局長及加藤連絡官右ニ翻スル説明ノ爲「ケー」ト會談セル處其ノ要點左ノ通

先ヅ「ケー」ヨリ前同ノ會談ニ於テ日本文新草案ハ舊官等トノ數次ノ協議ノ結果修正セルモノ以外ハ若干用語ニ變更ヲ加ヘタルノミニシテ英文原案トハ本質的ニ異ラズトノ御話ナリシ爲一々日英兩文ヲ對照スルコトナクシテ之ガ發表ニ付諒解ヲ與ヘ又日本政府ヨ

外務省

0462

RA'-0078

0249

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

Handwritten notes and stamps on the right side of the document, including a large seal and various signatures.

リ提出アリタル日英兩文章案寫ヲ極東委員會ニ送付セル次第ナル
ガ其ノ後檢討セル處重大ナル主義上ノ問題ヲ含ム變更ガ加ヘラレ
アルコトガ判明シ「ウイトニイ」准將以下政治部一同大イニ
disturb サレ居ル状態ナリト述マ
當方ヨリ右ハ如何ナル點ナルヤト質セルニ對シ「テ」ハ對ハバ

外務省

0463

一、第三條及第七條ノ approval ナル語ハ「同意」ト譯サレ居ル處
「同意」トハ對等ノ地位ニマル者ノ間ニ使用セラルル言葉ナリ
吾々トシテハ本憲法草案ニ於テ 天皇ノ地位ト同等ニスル意
圖ハ毛頭ナク 天皇ハ單ナル國家ノ象徴ニ他ナラズ自分等ノ考
ニテハ 天皇ヲ恰モ國旗ノ如クスル考ナリ卒直ニ述ベ當司令郎
ハ本憲法草案中特ニ 天皇及皇室財産ニ關スル條項ニ付テハ極
東委員會中就中「ソ」聯支那及濠洲側ヨリスル反對論ニ對シ之
辯護スルニ相當ノ努力ヲ拂ヒツマリ且 天皇御自身モ本憲
法草案ヲ既ニ承諾セラレ居ル際之ニ何等カノ變更ヲ加フルコト
ハ望マシカラズト述ブ之ニ對シ當方ハ舊草案ニ「贊同」トマル
「同意」トナルハ決シテ右ノ如キ意圖ニ出テタルモノニアラ
ズシテ憲法ヲ一般國民ニ理解シ易クセンガ爲難解ノ語ヲ平易ナ
ル語ニ變ヘタルニ過ギズ當方トシテモ卒直ニ述ベ國民ニ對シ本

外務省

0464

RA'-0078

0250

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

草案が英文原文ノ翻譯ナリトノ印象ヲ與ヘザル様極力努ムル要アリタル點了解セラレタシト答フ「ケ」ハ第五十條第三項ニ衆議院ガ參議院ノ採リタル措置ニ付「同意」ヲ爲ストノ語アル處右原文ハ agreed to アリ「同意」ナル語ハ明ニ兩者對等ノ場合ニ使用セラレ居リ又同一法文中ノ同一語ハ同義ニ解セラルベキナリ實ハ自分等ハ日本人五名程ヲ呼ビ來リ「同意」ナル語ト「承諾」ナル語トガ同ジ意味ナリヤラ質シタル處五人ガ五人迄異ル旨答ヘタリ依ツテ「同意」ナル語ハ「承諾」ト訂正スベシト述ブ當方ヨリ「同意」ナル語ハ民法上親ガ三十歳以下ノ息子ノ結婚ニ對シ與ヘル承諾ノ場合ニモ使用セラレ居リ地位高キ者ヨリ低キ者ニ對スル承諾ノ場合ニモ使用シ得ル點ヲ指摘セルニ對シ先方ハ結婚適齡期ノ男子ノ地位ハ親ノ地位ト對等ト看做サルベキ旨述ベ之ヲ反駁スル等論議盡キザリシヲ以テ遂ニ「ケ」ハ斯

外務省

0465

ク「同意」ナル一字句ノ修正ニ時間ヲ費スニ於テハ寧ろ本條「天皇ノ國務ニ關スル行爲ハ内閣ノ權威ニ基キテノミ云々」ト書キ直ス方然ルベシト云ヒ始メタルヲ以テ當方モ折レ「承諾」ノ代リニ「承諾」ナル語ヲ採用スルコトニセリ右ト同様ノ理由即チ國會ト内閣ノ地位ハ同等ニ非ズトノ理由ニ基キ第五十七條第六十四條ノ「同意」モ「承諾」ト修正ス

外務省

0466

RA'-0078

0251

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

ニ次ニ「ケ」ハ第三條及第七條ノ advice ナル語ハ「補佐」ト譯サ
レ居ル處右モ assistance ノ意味ニシテ辭典ニハ counsel ノ意味
ハ最後ニ記サレ居ルニ過ギズ「補佐」トハ下位ノ者ヨリ上位ノ
者ニ對シテノミ云ヒ得ルコトナルヲ以テ之モ修正ノ要アリト述
ブ、依ツテ當方ハ實ハ舊日本草案ニアリタル「補弼」ナル語
ハ現行憲法ニ於テ使用セラレ居リ一部ニハ君臣間ノ封建的關係
ヲ表現スル語ナリトノ論モアリタルニ依リ之ヲ「補佐」ト變更
シタル次第ニシテ寧ロ「補佐」ノ方ガ邊ニ民主的用語ナリト考
フル旨述ベタル處先方ハ若シ「補弼」ナル語ガ右ノ如キ意味ナ
リトセバ勿論自分等トシテモ之ガ使用ニ贊成セザリシナラン、
依ツテ「補弼」ナル語ハ問題外ナルガ例ヘバ「ウイトニイ」強
將ガ自分ニ對シ何々ヲ advice スト云フ際ニ右ヲ「補佐」スト譯
スコトガ果シテ適當ナリヤ、之ヲ「忠告」ト修正シテハ如何ト

外務省

0467

述ベタルヲ以テ當方ハ「忠告」ナル語ヲ憲法ニ使用スルコトハ
恰モ米國憲法ニ like ナル語ヲ使用スル如ク極メテ奇異ノ感アリ
ト答フ「ケ」ハ然ラズ寧ロ advice ナル語ヲ全然削ツテハ如何ト
示唆セルガ之ヲ全然削除スルコトモ面白カラザル點アルニ鑑ミ
結局「補佐」ヲ「助言」ト修正スルコトニ決セリ

外務省

0468

RA'-0078

0252

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

三「ケ」ハ第八十四條ノ Allowances and expenses ハ「經費」ト譯
 サレ居ル處經費トハ sum of expenditure ニシテ百萬圓ナレバ百
 萬圓ト云フ金額ノ全体ヲ指シ一々ノ支出ノ細目ヲ意味スルニ非
 ズト了解ス、併作變ニ第八條ノ disbursements ヲ削リ Effects
 シタル所以ハ第八十四條ニ於テ金錢支出ニ付テハ細目ガ國會ニ
 依リ定メラルベシトノ規定アルニ徴シテノコトナルヲ以テ本條
 ニ於テ斯ク漠然ト規定スルハ面白カラズト述ブ當方ハ舊草案ニ
 「經費ノ支出」トアルヲ「經費」トシタルハ之ニ依リ何等實質
 的差異ヲ設クル意圖ニアラズ唯二語重複ノ感アリタルニ依リ「
 支出」ヲ削リタル次第ナリ從ツテ「經費」ノ代リニ「支出」ノ
 語ヲ用フルモ差支ヘナシトテ之ヲ「支出」ト修正ス
 結局修正ヲ施シタルハ以上三點ニ止マリタルモ右ノ外「ケ」ハ
 例ハズ

四第一條ニ Emperor shall be the symbol of the state.....トア

外務省

0469

ルヲ「天皇ハ日本國ノ象徴デアリ、」ト譯スルコトハ Emperor
 being the symbol of the state ノ意ニシテ本憲法實施ト共ニ 天皇ガ
 國家ノ象徴トナル、即チ從來ト全ク異ルモノニナルトノ意ガ出
 デ居ラズ舊草案ノ如ク「、、象徴タルベシ」トスル方適當ナ
 ルベシト主張ヤルモ當方ハ其ノ論ノ根據ナキヲ駁シテ先方モ納
 得ヤリ

五第三十五條 exploitation of children ヲ舊草案ニ「不當使用」ト
 アルヲ新草案ニ於テハ「酷使」ト譯セル處先方ハ右ヲ hard work
 ノ意ニシテ本條ニ依リ例ヘバ學校ノ授業時間中ニ子供ヲ輕業興
 行ニ使用スルヲ防止スル意圖ガ十分ニ出デ居ラザルニ付之ヲ「
 搾取」トスベシト主張ヤルガ當方ヨリ「酷使」ニテ十分ナリト
 説明シ先方ハ之ヲ了承セリ

外務省

0470

RA'-0078

0253

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

六「ケ」ハ第五十條ノ參議院ノ緊急集會ニ付テハ既ニ決定セラレタル所ナルヲ以テ自分トシテハ變更ヲ求ムル心算ナキモ右ニ付重大ナル缺陷ヲ發見シタリ即チ、緊急集會ニ於テ採ラルル措置ハ緊急措置ニハ限ラレザルニ依リ例ヘバ衆議院議員總選舉中右緊急集會ニ於テ選舉法ヲ改正シ己ガ欲スルガ如キ議員ヲ以テ構成セラレタル衆議院ヲシテ其ノ採リタル措置ニ同意セシムルコトモ可能ナリ從ツテハ右ハ緊急措置ニ限定スベカリシナリト述ブ當方ヨリ御説ノ通ナルモ何人モ本緊急集會ガ右ノ如キ目的ノ爲難カルルモノニ非ザルコトハ常識ニ依リ判斷シ得ベシト答フレバ「ケ」ハ憲法ノ條項ニハ粗漏アルベカラズ聞ク所ニ依レバ本條ハ戰時中現行憲法ニ違反スルコトナク獨裁者トシテノ權力ヲ揮ヒ又人ニ依リテハ「ビツトラ」スラ「ワイマール」憲法ニ何等違反ヲ爲サザリシモノト説ク自分ノ見ル所ニテハ日本人

外務省

0471

ハ過去ニ於テ現行憲法ノ下ニ於テモ相當ノ民主的訓練ヲ受ケ居リタルモノニシテ然ラザレバ今固ノ如キ見事ナル總選舉ヲ行ヒ得タリトハ考ヘラレズトテ口ヲ極メテ國民ノ今次總選舉ニ對スル熱意、眞面目サヲ褒メ其ノ結果ノ如何ヲ問ハズ「タル上何レニセヨ自分ハ參議院ガ民主的基礎ノ上ニ構成セララルニ於テハ假令右ニ述ベタルガ如キ可能性アリトスルモ差支ナシト考フル旨述フ

外務省

0472

RA'-0078

0254

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

セ最後ニ「ケ」ハ第八十四條ニ付テハ茲四、五日間自分ト經濟科
學部「マータート」少將及天然資源部「シエンク」大佐ノ間
ニ議論カ行ハレタルガ自分ハ本條ヲ辯護スルニ大イニ苦勞セリ
即チ本條ノ「世襲財産」ニ關シ宮内省代表ト經濟科學部及天然
資源部トノ間ニ別途交渉行ハレ居ル處宮内省側ノ「世襲財産」
ノ解釋ガ極メテ廣範圍ニシテ其ノ中ニハ多クノ收益財産ヲ包含
メ居ル由ニテ天然資源部及經濟科學部ハ寧ロ本條ヨリ世襲財産
ニ關スル例外ヲ削リ一切ノ皇室財産ヲ國ニ屬セシムルコトヲ主
張シ居レリ然ルニ自分ノ解釋トシテハ本條ニ云フ「世襲財産」
トハ現ニ收益ヲ齎シツアル財産又ハ收益ヲ齎シ得ル財産ハ一
切之ヲ含マズ（尤モ收益ヲ齎スモ其ノ維持ノ爲ヨリ多クノ費用
ヲ要スルガ如キモノハ世襲財産トスルコトヲ妨グズ）主トシテ
御所ノ如キモノヲ謂ヒテ廣大ナル土地等ハ一切國ニ屬セシムル

外務省

0473

ニアリ換言セバ本條ノ目的ハ國ノ豫算ニ依ルニ非ズシテ皇室ガ
夫ニ依リ Live on シ得ルガ如キ財産ヲ一切國ニ屬セシムルコト
ニアリ前同ノ會議ノ際ノ御話ニ依レバ本條ヲ更ニ變更スルヤモ
知レズトノコトナルガ右ニ述バタル如ク本條ノ變更ハ寧ロ經濟
科學部及天然資源部ノ望ム所ニシテ斯クテハ宮城、御所等モ一
切國ニ屬スルコトナル惧レアルヲ以テ貴官ヨリ宮内省代表ニ
自分ノ解釋ヲ傳ヘ「世襲財産」ノ範圍ニ付兩者ノ考方ノ接近ヲ
圖リ日本側ヨリ改メテ本條ノ修正ニ關スル交渉ヲ開始セザル方
ガ得策ナラント考フル旨勸告セリ依ツテ當方ハ宮内省代表ニ其
ノ旨連絡スベキコトヲ約ス

(註) 翌二十日加藤宮内省官房主事ニ右ヲ連絡セル處宮内省側
ニテハ皇室財産ノ御解放ニ關シ總司令部ト交渉ヲ行ヒ居
ルニ過ギズ唯其ノ際御解放後殘レル世傳御料及普通御料

外務省

0474

RA'-0078

0255

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

ヲ皇室ノ世襲財産トシテ殘置シ庶キ希望ヲ表明セルコト
 アルモ右ヲ以テ新草案ニ云フ「世襲財産」ノ解釋トスル
 意圖ハ毛頭ナシトノコトナリ總司令部側ガ「世傳御料」
 ト「世襲財産」トヲ混同シ居ルヤニモ見受けラルル節ア
 リ先方ハ hereditary ^{estates} 別譯トシテ世傳御料ナル語アリト
 云ヒ居リタルコトアリ

本會談ヲ通シ先方ハ當初頗ル不機嫌ナリシモ漸次語氣ヲ柔ゲ來リ
 最後ニ「ケ」ハ日本政府ガ故意ニ以上ノ語句ノ變更ヲ試ミタリト
 ハ考ヘザルモ之等變更ノ與フル whole estate ノ地位ヲ高メ國會ノ
 地位ヲ低ムル方向ニアリ總司令部トシテハ極東委員會トノ關係モ
 アリ日本政府ガ右ト逆ノ方向ニ字句ヲ修正スルニ於テハ一向之ニ
 干涉セザリナランモ右ノ如キ變更ハ假令一字句ト雖モ輕視シ得ザ
 ル事情アル點ヲ繰返シ説明シ以上ノ訂正ヲ早速極東委員會ニ對シ
 電報スベシト述べ居レリ

外務省

0475

21 新憲法草案修正(草案) 會議ノ件 (第5次)

本件ニ關シテハ四月十五日ノ第四次會議ノ最後トシテ同十八日 新憲法
 草案發表ノ運びトナリタルが翌十九日 總司令部 政務部「ケ」ライス大佐
 ヨリ白州中央連絡事務局次長ニ對シテ今同發表ノ草案ニハ總司令部
 了解事項以外ニ意見ヲ以テ原案ヲ變更セリト認ムル節アリ極
 メテ困惑シ居ル旨任ヘ來レリ 依ッテ同日佐藤次官局長及加藤運給
 官右ニ關スル說明ノ爲「ケ」ト會議セル処其ノ要莫大ノ函
 ・先ヅ「ケ」ヨリ 白州中央連絡事務局次長ニ對シテ
 果修白セルモ以外ハ若干ノ用語ニ變更ヲ加ヘタルノミニシテ英文原案トハ
 本條的ニ思フゾトノ兩語ナリ爲 一々日英兩文ヲ對照スルニトナラシメ
 之ガ發表ニ付 諒解ヲ求ヘ又 日本政府ヨリ提出アリタル日英兩文
 草案ヲ極東委員會ニ送付セル次第ナルが其ノ後檢付セル処重大
 ナル主義上ノ問題ニ含ム變更ガ加ヘラレタルトガ判然シ「ケ」トニ准將以

外務省

0476

タイノ八部

RA'-0078

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

0255

下政昭部一同大イニ
 右ハ如何ナルモナルト質トニ對シケルハ例ハハ
 第三條 第七條
 八ノ居ル処同意トハ對等ノ地位ニアル者ノ間ニ使用セラルル言葉ナリ本
 憲法草案ニ於テ天皇ノ地位ト内閣ノ地位トヲ同等ニスル意圖ハ毛
 頭ナリト天皇ハ單ニ國家ノ象徴ニ他ナク
 如クナル考ナリ 卒直ニ述ベ当司合部ハ本憲法草案中特ニ天
 皇及皇室財産ニ關スル條項ニ付テハ極力存外會中孰中ノア
 支那 濠洲 例ヨリスル及對論ニ對シテ之ヲ辯護スルニ相當ノ努力
 ヲ拂ヒツツアリ且 天皇自身ニ本憲法草案ヲ既ニ承諾セラレ居ル際
 之ニ何等カノ變更ヲ加フルトハ望ミシカラズト述ブ 之ニ對シ當方ハ
 旧草案ニ贊同トアルヲ同意トセルハ決シテ右ノ如キ意圖ニ出デタルモノ
 ニアズ 憲法ヲ一般國民ニ理解シ易クセンガ爲 難解ノ語ヲ平易ナル

外務省

0477

語ニ變ヘタルニ過ギズ 當方トシテモ 卒直ニ述ベ奉 國民ニ對シ本草案
 ガ英文原文ノ翻譯ナラトノ印象ヲ与ヘザル様極力ハ
 了解セシメント答フ 之ハ亦五ノ案ヲ三ニ裁減院ガ衆議院ノ採
 リタル措置ニ付同意トシテトノ語アルハ右原文ハ
 以ニ兩者對等ノ場合ニ使用セラレ居ル 同一法文中ノ同一語ハ同
 ニ解セラルルヲ案ナリ 實ハ自分草案ニ用テ人五名ヲ呼ビ来リ 同意
 ナル語ト承諾ナル語トガ同ジ意味ナリヤ 領タル処五人ガ五人造 異ル
 日語ニテハ 依テ 同意 承諾 承諾ト計シカント也 當方ヨリ
 同意ナル語ハ民法上視ガ三十歳以下ノ男子ニ對シテハ承諾ノ場合ニモ
 使用セラレ居リ 地位者ノ承諾 使用ニ得ル者ト指稱セルニ對
 シ先方ハ結婚適齡期ノ男子ノ地位ハ親ノ地位ト對等看做サルハ
 進歩的 論議盡キザリシヲ以テ遂ニ之ハ 辭ヲ同意ナル一字句ヲ修
 正ニ付同ク貴スニ於テハ 案ヲ本條ク 天皇ノ名義ニ對シテハ内閣

外務省

0478

RA'-0078

0257

ノ權威ニ基キテ云々ト書キ直ス方カハレト云々ト始メタルヲ以テ
 方モ折レテ承認ノ儀アリテ承認ナル語ヲ採用スルコトニテモ 右ト同様
 理由即チ由合ト内閣ノ地位ハ同等ニ非ズトノ理由ニ基キテ五
 十七番ハ方カ下四番ノ同意ニ承認ト修訂ス
 三ノ意味ニシテ詩典ニ Advice 補佐ト譯スル處 右モ
 補佐トハ下位ノ者ニ上位ノ者ニ對シテ云々ト行ハルコトナルヲ以テ
 之ニ修訂ノ要アリト附シテ 依ツテ方カハ實ハ旧日本草案ニテ
 ル 補佐ナル語ハ現行憲法ニ於テ使用セザル一部ニハ不臣内
 閣建の關係ヲ表現スル語ナラト論セザルニ依リテ之ヲ 補佐ト
 改メタル次カニシテ 寧ろ 補佐ノ方が選ニ及ビ用テ語ナラト考
 へ 憲法ニ於テ先方ノ若シ 補佐ナル語カ在ノ如ク意味ナラトセバ
 尙論自合等トシテモ 務成セザリシラン 依ツテ 補佐ナル語ハ内閣
 外ニ於テ例ヘバ ヲイトラシ 權將ガ自合ニ對シ何モラ Advice スト云
 フ際ニ在テ 補佐トシテ譯カ果シテ 適 否モヤ 之ヲ中心ニ修訂シテハ
 以テト述メタルヲ以テ 若方ハ 中者ナル語ヲ憲法ニ使用スルコトハ
 尤モ 宜シ 憲法ニ 補佐ナル語ヲ使用スル如ク 極メテ 奇異ノ感ヲ受
 フ 然ラバ 寧ろ Advice ナル語ヲ全然 削ツラハ如何ト 亦 嘆息シカ
 全然 削除スルコトニ 固カキカハルニ 雖モ 結局 補佐トシテ 勿クシ
 ト修訂スルコトニ 決セリ
 三ノ 八十四番、 Allowance and expense ハ 至 貴ト譯スル處 又
 至 貴トハ Allow of expenditure ニシテ 百萬内ヲ 或 百萬内ト云フ 金
 額ノ 金作ヲ 指シ 之ノ 支 出、 細目ヲ 意味スルニ 非ズト 解ス 併
 作 八 條ノ 金作 金 額 支 出ニ 付 細目ガ 如 合 依リ 定メラルル 規 定
 十四番ニ於テ 金 額 支 出ニ 付 細目ガ 如 合 依リ 定メラルル 規 定
 アルニ 徴シテ ノット ナルヲ 以テ 本 案ニ 於テ 斯ク 漠 然ト 規定スルハ 固カキ
 外 務 省

0480

ノ權威ニ基キテ云々ト書キ直ス方カハレト云々ト始メタルヲ以テ
 方モ折レテ承認ノ儀アリテ承認ナル語ヲ採用スルコトニテモ 右ト同様
 理由即チ由合ト内閣ノ地位ハ同等ニ非ズトノ理由ニ基キテ五
 十七番ハ方カ下四番ノ同意ニ承認ト修訂ス
 三ノ意味ニシテ詩典ニ Advice 補佐ト譯スル處 右モ
 補佐トハ下位ノ者ニ上位ノ者ニ對シテ云々ト行ハルコトナルヲ以テ
 之ニ修訂ノ要アリト附シテ 依ツテ方カハ實ハ旧日本草案ニテ
 ル 補佐ナル語ハ現行憲法ニ於テ使用セザル一部ニハ不臣内
 閣建の關係ヲ表現スル語ナラト論セザルニ依リテ之ヲ 補佐ト
 改メタル次カニシテ 寧ろ 補佐ノ方が選ニ及ビ用テ語ナラト考
 へ 憲法ニ於テ先方ノ若シ 補佐ナル語カ在ノ如ク意味ナラトセバ
 尙論自合等トシテモ 務成セザリシラン 依ツテ 補佐ナル語ハ内閣
 外ニ於テ例ヘバ ヲイトラシ 權將ガ自合ニ對シ何モラ Advice スト云
 フ際ニ在テ 補佐トシテ譯カ果シテ 適 否モヤ 之ヲ中心ニ修訂シテハ
 以テト述メタルヲ以テ 若方ハ 中者ナル語ヲ憲法ニ使用スルコトハ
 尤モ 宜シ 憲法ニ 補佐ナル語ヲ使用スル如ク 極メテ 奇異ノ感ヲ受
 フ 然ラバ 寧ろ Advice ナル語ヲ全然 削ツラハ如何ト 亦 嘆息シカ
 全然 削除スルコトニ 固カキカハルニ 雖モ 結局 補佐トシテ 勿クシ
 ト修訂スルコトニ 決セリ
 三ノ 八十四番、 Allowance and expense ハ 至 貴ト譯スル處 又
 至 貴トハ Allow of expenditure ニシテ 百萬内ヲ 或 百萬内ト云フ 金
 額ノ 金作ヲ 指シ 之ノ 支 出、 細目ヲ 意味スルニ 非ズト 解ス 併
 作 八 條ノ 金作 金 額 支 出ニ 付 細目ガ 如 合 依リ 定メラルル 規 定
 十四番ニ於テ 金 額 支 出ニ 付 細目ガ 如 合 依リ 定メラルル 規 定
 アルニ 徴シテ ノット ナルヲ 以テ 本 案ニ 於テ 斯ク 漠 然ト 規定スルハ 固カキ
 外 務 省

0479

RA'-0078

0258

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

7

一、意ニシテ本案ニ依リ例ヘバ学校ノ授業時間中ニ子供ノ授業
 止ルニ使用スルノ防止スルニ意図ガ十分ニ出テ居ラザルニ付之ヲ採
 トルヘントニ依ルルガ所方ヨリ「醜便ニテ十カテラト漫然シ先方ハ
 〇ニテア」等キ
 二、ケリ、月五ノ案、参議院ノ緊急集会ニ付ラハ既ニ決定セシメ
 所ノルヲ以テ自分トシテハ非特変更スル心算ヲモ右ニ注意大
 ナル欠陥ヲ発見シテ即チ、緊急集会ニ於テ採ラレル措置ハ緊急
 為措置ニ限ラザルニ依リ例ヘバ参議院議決ヲ以テ議決中ノ右緊急
 集会ニ於テ「緊急」法ヲ改訂シ乙ガ欲スルガ如キ議決ヲ以テ構成セ
 タル参議院ヲシテ其ノ稀クタル措置ニ同意セシムルニ可能ナリ
 従テ右ハ「緊急」措置ニ限定スルニ付ト述ブ。右方ヨリ即説
 ノ通テレハ、任人ニ本緊急集会ガ右ノ如キ目的ノ為用ルルモノニ非
 カントハ「常」法ニ依リ判断シ得ベシト答ハレバ、ケリハ「憲法」條次

外務省

0482

6

一、但ト述フガ、右方ハ「旧草案」ニ「若シテ支出トアルトシタルハ
 之ニ依リ何某實債的差異ヲ生ズル意図ニテアルハ、之ニ依リ「重
 復」ノ感
 アラズニ依リ「支出」削リタルハ、右方ヨリ「従テ」至「貴」ノ「支
 出」ノ「感
 用」ルル「差」支ヘントラズ「支」出ト「修」ス
 二、法局修訂「施」ラレル「難」以上ニ「美」ニ止ラタルモ、右ノ外「例
 一」ハ「例
 四」ハ「一」案「Empower shall be the symbol of the state」ト
 アルヲ「天皇」ハ「日本」ノ「象徴」ナリ「一」ト「譯」ス「ト」。「Empower
 being the symbol of the state」ノ意ニシテ「本憲法」實施「上」其
 「天皇」ノ「象徴」ナリ「即チ」従「来」ト「合」テ「異」ル「モノ」ニ「付」テ「意」ガ「出
 テ」居「ル」ハ「旧草案」ノ「如ク」。「一」ノ「象徴」タル「ト」ナル「ガ」
 「修訂」セ「ル」ニ「依」リ「其」ノ「論」ノ「根據」ナ「キ」ヲ「駁」シ「テ」先「方」ノ「如ク」
 五、第三十ニ「案」 explanation of children 〇旧草案ニ「不」當
 使用「ト」ス「ル」ヲ「改」訂「ス」ル「ハ」「醜」便「ト」シ「テ」先「方」ノ「如ク」
 社 外 務 省

外務省

0481

RA'-0078

0259

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

二ハ租滿アヘカス不南ク所ニ依ルベキ條ハ戦時中視テ憲法ニ違
 及スルトナク獨裁者トシテノ權カヲ稱シ人ニ依リテハレトナラ
 ヲイコル憲法ニ何事違及ヲ為サザリシモノト説ク自今ノ見ル
 所則チ日本人ハ過去ニ於テ視テ憲法ノ下ニ於テモ民主的訓條
 ヲ受ケ居リタルモノニシテ然ラザレバ今同ノ如キ見事ニ認
 ラ行ヒ得タリトハ考ヘムストロフ極メラ由民ノ總選擧ヲ計スル
 更直目サヲ張メ(其ノ結果ノ如何ヲ問ハズ)タル上何レモ自
 ハ參議院ガ民主的基礎ノ上ニ構成セラルルニ於テハ假令右ニ述
 タルカ如キ可能性アリトスルモ差支ヘント考ヘ得ル也
 二七最後ニハ八ノ四象ニ付テハ第四日自今トテ滿洲科
 學マリアート少將及天然資源部トシテ大任ノ間ニ議論カ
 公費自今ハ本條ヲ辯護スルニ大イニ苦勞トナリ也
 又、本條ノ本條財源ニ関シ官内者代表トテ滿洲科
 外務省

0483

天代「資治通鑑」ト同、別道交易ハ凡ソ居ル知官内者例、本條
 財源ノ解釋カ^科トシテ其ノ中ニ多クノ收養財源ニ
 ヲ居ル由ニテ天然資源部ノ^科トシテ其ノ中ニ多クノ收養財源ニ
 ヲリ本條財源ニ^科トシテ其ノ中ニ多クノ收養財源ニ
 セシムルトナラズ然ルニ自今ノ解釋トシテハ本條ニテ
 本條財源トシテ現ニ收養ヲ行フアル財源又ハ收養ヲ養得ル
 財源ハ一切之ヲ含ム(尤モ收養ヲ養スモ其ノ維持ヨリ多ク
 ノ費用ヲ界スルガ如キモノハ本條財源トシテナラズ)官トシテ
 所ノ如キモノヲ謂ヒ^科トシテ其ノ中ニ多クノ收養財源ニ
 セハ本條ノ目的ニ依リテ非スレバ皇室ガ夫ニ依リ
 ン得ルガ如キ財源ヲ一切之ニ含ムルトナリ
 本條ノ旨ニ依リテ本條ヲ變更スルマエ知ハストノコトナルカ在
 述タル如ク變更ハ寧ろ^科トシテ其ノ中ニ多クノ收養財源ニ
 外務省

0484

RA'-0078



2

~~Principles~~
Minister Kanamori's Six Principles On The
Constitutional Reform

17 July 1946

1. Under the new constitution Japan's basic government structure with the Emperor as the center is radically modified. There are those who think that the basic government with the Emperor as the center constitutes Japan's national character. But that, I believe, is the form of government, and not the character of nationhood.
2. Under the present constitution the will of the people is concretely expressed through the Emperor. But that is not the case with the new constitution, according to which the people's will finds concrete expression largely through the Diet.
3. Under the new constitution the Emperor remains simply a symbol. ~~he does not represent the people's will. But as hitherto he is a personification of the objective picture of Japan.~~ By saying that the Emperor is the symbol of the state and of national unity, it is meant essentially that in the person of the Emperor we may see the picture of Japan. It does not mean that he personifies the will of the state or of the people.
4. Under the present constitution the Emperor has the power to do practically everything. The new constitution clearly specifies his functions, beyond which he is not empowered to do anything. (It is absolutely impossible to extend or increase his functions by legislation).
5. It has been generally considered that the position of the Emperor under the present constitution is based upon the will of the Emperor, or the hereditary will of the Imperial family. Under the new constitution the Emperor's position is derived solely from the will of the people.

But

0489

6. But in the moral and spiritual sphere, apart from the question of government structure, the Emperor remains throughout both before and after the constitutional reform the center of the nation's devotion. The statement that Japan's national character does not change has reference to this point.

0490

RA'-0078

0263

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

1. Under the new constitution Japan's basic government structure with the Emperor as the center is radically modified. There are those who think that the basic government with the Emperor as the center constitutes Japan's national character. But that, I believe, is the form of government, and not the character of nationhood.
2. Under the present constitution the will of the people is concretely expressed through the Emperor. But that is not the case with the new constitution, according to which the people's will finds concrete expression largely through the Diet.
3. Under the new constitution the Emperor remains simply a symbol, ~~he does not represent the people's will. But as hitherto he is a personification of the objective picture of Japan.~~ By saying that the Emperor is the symbol of the state and of national unity, it is meant essentially that in the person of the Emperor we may see the picture of Japan. It does not mean that he personifies the will of the state or of the people.
4. Under the present constitution the Emperor has the power to do practically everything. The new constitution clearly specifies his functions, beyond which he is not empowered to do anything. (It is absolutely impossible to extend or increase his functions by legislation).
5. It has been generally considered that the position of the Emperor under the present constitution is based upon the will of the Emperor, or the hereditary will of the Imperial family. Under the new constitution the Emperor's position is derived solely from the will of the people.

But

0491-1

- 2 -

But in the moral and spiritual sphere, apart from the question of government structure, the Emperor remains throughout both before and after the constitutional reform the center of the nation's devotion. The statement that Japan's national character does not change has reference to this point.

0491-2

RA'-0078

0254

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

大臣
次官

密

A'3.0.1.2

憲法改正案に關する會談の件（其の二）

總理政治部加藤記

七月十七日金森、ケーデイス第一次會談に於て、日本文憲法改正案に「主權在民」を明文化することに付ては金森國務相の拒否するところとなつたが、同二十五日金森國務相より十七日の會談に於て十分意を盡し得なかつた點があつたので「ケ」に對し再度の會談を申入れ、内閣書記官長官邸に於て午後五時頃より約三時間、間に亘つて入江法制局長官、佐藤同次長、加藤連絡官立會の下に第二次金森、ケーデイス會談を行つた處その要點は左の通りである。

一先づ國務相より從來議會に於ける審議の結果より見て有力と思はれる修正點及びこれに對する政府の態度を報告旁々ケーデイスの意圖を質したが特に問題となつた點は左の諸點である。

(一) 第四條第一項後段「政治に關する權能を有しない」を削るべしとの修正意見ありと述べた處「ケ」は始めからこの文句が

外務省

0492

なかつたならば自分もその方がよいと考へるが、一旦これを加へた後削ることとすれば、それでは天皇は政治に關する權能を有するのといふ誤解を與ふる恐れがあるからこの文句の削除には賛成し得ぬ旨述べた。

(二) 第三章冒頭に「日本國民であること」の要件は法律の定めるところによる」との一々條を新に設けるべしとの修正意見に對しては「ケ」は異議なしと述べた。

(三) 第二十五條勲勞の權利と共に勲勞の義務をも規定すべしとの修正で意見ありと述べた處「ケ」は抑々勲勞の權利とは如何なる意味かと問ふたので、本項は單なる權利の宣言に他ならず、何等法律的内容を有つものでない、吾本項は種々の法律制定の基礎又は前提となるべきものと考へると考へた。「ケ」は右の様を意味で勲勞の義務を規定することに依り、罷業權が否定されることにならぬかを懸念した次第であると述べた。

外務省

0493

RA'-0078

0265

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

第二十七條第三項中「正當な補償の下に」を「法律の定めるところに依り」と修正し、場合に依つては補償なしに私有財産の公共收用を行ひ得る如くすべしとの修正意見ありと述べた處「ケ」は寧ろイムブループメントであると考へる旨述べた。

(五)第三十六條の次に別に一條を設け「逮捕、拘禁されたものが裁判の結果無罪の判決を受けたときは法律の定めるところにより損害賠償を受ける権利を有する」旨規定すべしとの修正意見に付ては「ケ」は斯く規定することに依り、検事が無理矢理に容疑者を罪に陥し入れる結果にならぬかを惧れる旨を述べたが、結局右の如く規定する以上、正當な令狀なくして逮捕拘禁された者に對しても補償を與ふること適當とすべしとの意見を述べた。

外務省

0494

(六)第六十四條第一項「國會の承認により」を削るべしとの修正意見に對しては「ケ」はこれを削る以上國務大臣は國會議員の中より任命する旨を規定する要がある。然らざれば國會の承認も經ず又直接國民を何等のつなかりを有さない大臣が行政權を執行する場合を生じ、非常に非民主的なこととなると述べた。これに對し當方は我國の現状では國務大臣を例外なく國會議員中より任命することは困難な事情にあることを説明した處「ケ」は自分も國務大臣の任命に一々國會の承認を得ることは急場の場合にはぬ弊害があることを認めるが、閣員が議員外より任命された場合は少くとも國會の承認を得ることを要すると考へる。何れにせよ本條より國會の承認云々を削ることに對してはウイト・メイ准將と相談の上でなければ確答し得ないと述べた。

(七)第三章國民の權利義務の章に納稅義務を規定すべしとの修正

外務省

0495

RA'-0078

0255

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

意見ありと述べたのに對し「ケ」は國會の課税に關する權能を制限しない限りに於て何等の異議なしと述べたので、當方もそれは勿論で、例へば「國民は法律の定むるところにより納税の義務を有す。」と云ふ如く規定することになるべしと説明した。

(八) 第八十四條「世襲財産」の次に「及びそれより生ずる収益」を加へ、「皇室財産から生ずる収益は、すべて國庫の收入とし、」を削るべしとの修正意見が非常に有力化しつとあると述べた處「ケ」はそれは第八十四條の規定とは全く別個に Here ditary estates の概念そのものに反する。英語で Here ditary estates と云へばそれは元來収益を齎さぬ財産、例へば御所とか御別邸の如きものを指すのであつて、収益を齎す世襲財産等とは考へられぬ。自分等の考ではそれは從來却つてその維持費を他の財源から仰ぐ要があつた様な皇室の財産を云ふ

外務省

0496

のである。此の點は前にも數回説明したところであり、本條は天皇の地位に直接關聯あるので、その重要性は主權の問題と同列にあると考へると述べ、政府が右の様な修正に反對する様要望し、此の點に關してもウイトニイ准將と相談の上でなければ確答し得ぬ旨を附言した。

(九) 第十章最高法規に關する三ヶ條を全部削除すべしとの修正意見あり、その理由とするところは第十章の規定は法律的に何等實質的意義を有しないといふことであると述べた處「ケ」は第九十三條の規定は或は前文を書き換へる際、これに織込んでよいし、或は又第三章國民の權利義務の冒頭に繰り入れてもよいと考へる。第九十五條は自分も是非とも必要な規定とは思はぬが、第九十四條は「並びにこれに基いて制定された法律及び條約は」を削除した上殘して置く要があると述べた。當方は當初議員側では前文を書き直し、約五分の一位

外務省

0497

RA'-0078

0257

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

にする意嚮が強かつたが、結局、字句の修正を行ふ程度に止めることとなつたので第九三條を他所へ移すことは困難である旨を説明し、政府としては第十章は第九十四條に於て必要を削除を行ふの他、原文の儘通過させ度い意嚮であると述べた。

外務省

0498

三次に、ケ種自分は未だに主權の問題に頭を悩ましてゐる次第である。と本會談の主目的に立返り、大要次の如く述べた。

爾の會談に於て金森國務相の述べられた憲法改正に關する六原則を其の後書類で頂き非常に結構と思つた。若し御差支へなければマツクアーサー元帥にも見せ度い。(國務相は差支へなしと答へた。)實は自分は第一次會談後遂にウイトニイ准將に自分の心配を全部打明け、日英兩文の差異及び主權を纏る議會討論狀況が世界の輿論に與ふべき影響に付て報告した次第であるから、今日は前會談の際と異り、全く非公式な資格で來てゐる譯ではない。自分がウイトニイ准將に前文の *the sovereignty of the peoples* の點の譯文の相違を指摘した際

the sovereignty of the peoples の點の譯文の相違を指摘した際准將は自分が今迄全然氣が付いてゐなかつた譯文の相違をも擧げて全く自分に同感を示した程である。即ち、准將に依れば前文第三段の *people* と云ふ言葉が日本文では *nation* と云ふ意味に譯

外務省

0499

RA'-0078

0258

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

されてをり、ここでも主権は國民にあらざして國家にあるといふ如く解される虞れあり、恰も現行憲法の下に於ては天皇一身に集中してゐた主権が新憲法の下で、國權にそれが移行するといふのでなく、議會、内閣、司法部及び天皇の四つの機關に分屬されるといふ解釋が成立せぬでもないといふのである。(これに對し入江長官より本變は國際關係を取扱つたものであるから國民の代りに國家といふ言葉を用ひる必要があつたので別に他意のないことを説明した。)何れにせよ、自分は若し日本文憲法改正案に主権在民といふことが明記されねば、ソ聯、濠洲遊りからこの點を掘へてケチをつけて來ること確實であると考へる。前會談に於て國務相は前文に於ける日英兩文の相違を指摘したのは共產黨員のみであると云はれたが、正にこの事實こそソ聯がこの點を問題にしてゐることを裏付けるものであらう。

外務省

0500

金森國務相は右のケの所言に對し、適迄自分は日本文原文の修正必要なしと信ずる。自分が今迄議會に於て多くの言葉を費して原文の儘でよい旨を説明して來た立場に鑑みても、今更この點を修正することは自分の大體の職責を果し得ないことになる旨を説明した。

外務省

0501

RA'-0078

0269

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

「ケ」は第一次會談の際と少しく觀點を移し、主として國際情勢から説き起し、過日、目下歸米中のハツシイ中佐（政治部政務課長、從來憲法問題に關し「ケ」と協力して來た人物）より受取つた手紙の内容を説明した。それに依ると、日本の議會に於ける憲法審議は米國に於ても注目されつゝあり、殊に主權の所在は米國に於ても問題とされて居り、注意を要する。一般に米國民は議會が憲法改正案をそのまゝ鳩呑みにしやうとしてゐるとの印象を有し、余りこれに對して好い感じを持つてゐないとのことである。自分も議會は政府提出の改正案が動かし難いものであるといふ風に考へず、必要な點はほとんど改正した方がよいと思つてゐる。何れにせよ、主權の所在に關しては日本文憲法が此の儘議會を通過すれば「ツッカーサー元帥は英文憲法に依り彼が三月聲明を發し *sovereignty is squarely in the people* と云つたことに對し世界から二つのことを云はれ

外務省

0502

るであらう。それは、ツッカーサーは世界に日本憲法を *misrepresented* して云はれるか或はツッカーサーは日英兩文の相違に氣が付かない程馬鹿であると云はれるかの何れかである。又世界は日本政府が世界を *doublecross* したといふかも知れないと述べた。

これに對し金森國務相はそれでは一体どうしたら良いか何が示唆されることはないかと質した處「ケ」は次の如く述べた。

自分は必ずしも前文の「こゝに國民の總意が至高なものであることを云々」の點を修正すべきことを主張してゐるのではない。若しこの點を修正することが國務相の立場を困難にするといふならば、こゝはこの儘にして置き、前文中でも本文でも何處でもよいか「主權在民」といふことを挿入されたらよいと考へる。そして右の修正を提案する際、國務相は自分が從來主權に關して行つた説明を *doubly sure* にする意味に於て右の

外務省

0503

RA'-0078

0270

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

提案を行ふ旨説明されたら一向國務相の立場を困難にする様なことはないと信ずる。或は國務相はその際、自分が今云つてゐることは數時間後にはモスコイにも傳はるであらうが、これ何處の國も日本の憲法に文句のつけ様があるまいと附言されることも適當であらう。具体的に何處の箇所を修正したらよいかといふことを御質ねなれば、自分の意見では第一條、「この地位は」の次に「主權の存する日本國民、」、(最後の people の次に with whom the sovereignty rests)といふ如く修正するの一案かと思ふ。(當方より第一條の修正は困難であると述べたに對し)或は前文の「、、その權威は國民に由來し」とある「國民」の前に「主權の存する」を加へてもよいと考へる。(the authority for which is derived from the people with whom the sovereignty rests

右の如く先方の態度には控え目乍ら頗る頑強且執拗なものが

外務省

0504

あつたので國務相も遂に前文に於て何とか「主權在民」といふことを明文化する様努力すべきことを約すと共に日本政府が世界を double-cross しやうとしてゐるといふ様なことを言はれるのは心外であると述べた。「ケ」は自分なり、司令部なりが日本政府にその意圖ありと思ふのでなく、日本に敵意を有する國がその様に解する恐れがあること指摘したのであつて、誤解のない様に願ひ度いと述べ、談笑の裡に會談を終了した。

0505

外務省

RA'-0078

0271

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

The Gist of Stenographed Records of the
Sub-Committee for the Amendment of the
Constitution in the House of Representatives.

The fifth meeting July 30.

On Art. 24, Para. 2 (Compulsory Education)

Mr. HAYASHI, Heima

In that case, I would like to amend it as follows: "All people shall be obligated to have all of the children under their protection receive education as provided for by law....."

Mr. OSHIMA, Tazo

I desire to amend it as follows: "All people shall be obligated to have all boys and girls under their protection received education until they attain such age as provided for by law....."

Mr. ASHIDA, the Chairman.

To say "until they attain such age as provided for by law" means the same as saying "as provided for by law."

Mr. INUKAI, Ken

Wouldn't it have more implication to say "as provided for by law" as proposed by the Chairman?

OSHIMA,

That would be all right.

SUZUKI, INUKAI, YOSHIDA and HATSUKADE agreed

(Regarding the question: the scope of compulsory education might not be clear by simply saying "education.")

0506

ASHIDA, the Chairman.

After all, the scope of education would be decided by what law provides for, wouldn't it?

SUZUKI,

Everything cannot be provided for herein. As to this problem, I am afraid we will have to be satisfied with general principles.

ASHIDA, the Chairman

Then I consider that all of you now seem to have agreed.

0507

RA'-0078

0272

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

新部長
副部長
政務長
事務局長

(二一、八、二一)
終連政治部 加藤記

憲法改正案に関する會議の件(其の三)

七月二十六日、ケイヂイス大佐の求めに依り小官第二次金庫、ケイヂイス會議の結果として具体的に如何なる修正を行ふかに付いて總司令部に報告に赴いた處、ケは實は今朝の新聞に於て自由黨修正案として、前文「ここに國民の總意が至高なものである、」が「主權が國民に存する、」と云ふ如く發表されたのを見たが、政府の意圖がここに盛られてゐることを知り、ウイトニイ准將とも大に喜び合つた次第である。併しこれは未だ自分も確實には知つてゐないことであるが、今日になつて聯合國側よりマックアーサー元帥に對し日本憲法に關し何等かの申入 *Representation* が行はれたらしい。そのことに關し現在ウイトニイ准將がマックアーサー元帥と協議中であるから、ウイトニイ

外務省

0508

0509

准將が 席に歸り次第詳しい話を聞き貴官にもお話し出来ることと思ふと述べた。自由黨、其の他各黨の修正案を説明中、ケはウイトニイ准將としばらく談合の後、小官に次の如く述べた。之から自分の述べたことは凡て公式であるからその積りで聞いて欲しい。即ち *Allied Powers* よりの申入に依ると日本憲法の前文にも本文にも「主權國民」といふことが明記されてゐるから *Sovereign powers reside in the People* といふことを憲法の *body* に入れるべし。第二に、日本憲法には *universal adult suffrage* に関する規定がないから第四十條に *property, income or education* といふ語を附加してその旨を明にすべしといふのである。マックアーサー元帥には實は日本政府が自由黨修正案として「主權國民」といふことを前文に於て明にする意圖があることを今朝報告した次第であるが、元帥は日本政府が右の様を決意を示した以上本文にもその旨を明にした方がよい。併し、本

外務省

RA'-0078

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

0273

文に明記した以上、前文にもこれを明記するか否かは日本政府の都合の上、い概にした方がよい。又第四十條にも *property, income or education* のいふ語を加へた方がよいであらうといふ意見である。

小官は右の様な申入は極めて重要問題であるから直接金森國務相なり、法制局長官なりに傳達して欲しいと述べた處々は、今日はまだもう時間もなし、明日は土曜日で司令部は休日である。憲法小委員會の議事の都合もあると思ふから取敢へず貴官よりその旨傳達され度いと述べたので、小官は何れ月曜日には法制局長官が何ふであらうが、取敢へずその旨を傳へるべきことを約した。尙その際、*Allied Powers* とは一体具体的には何のことか極東委員會のことか、それともソ聯のことかと留めた處、ケは自分もはつきりしたことは知らない。その申入の方法も元帥に對する *Direct Communication* であるか、或は又在日聯合國代表よ

外務省

0510

りの申入であるかについて自分には知らされてゐない。唯極東委員會のことでないことだけは確實であると答へ、自分は今迄斯様な問題が起ることを懼れて非公式な形で随分努力した積りであるが、その努力が二、三日過ぎに失したことを非常に遺憾に思つてゐる。若し、今朝の新聞に出てゐた自由黨修正案がより早く出てゐたら聯合國を *forestate* 出来たことと思ふと述べられてゐた。尙、小官の聯合國側は英文か日文かその何れにリファとしてゐるかとの間に對しては自分は英文と思ふと答へた。

外務省

0511

RA'-0078

0274

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

ニ右の申入に關し七月二十九日入江法判局長官、山田總連政治部長及加藤連絡官ケーディヌ大佐と會談した處その要點は左の題である。

(一)先づ當方より二十六日聯合國側よりの申入れに關しては直に内閣に傳達目下協議中であり衆議院憲法委員會委員長にも非公式にその旨傳達して置いたが、尙念の爲聯合國側の申入内容及びこれに關するマツクアーサー元帥の意見をもう一回述べられ度いと述べた。右は前述聯合國側よりの申入内容を繰返し、聯合國側が右の申入をなした理由として、第一に、議會に於て、主權の所在が非常に問題になり、それに関する政府の答辯が明瞭でないこと、第二に憲法に於て前文と本文との法律的効力の差異如何、換言すれば、前文は本文の様な法律的効力を有さないのではないか、との法律問題が提起されたことを挙げた。而してケは第二の點に關しては、自分と

外務省

0512

しては前文にある以上本文にこれを繰返へす要はないと考へる。又左様考へたからこそ舊に本文でも前文でも何處でもよいかから「主權在民」を明記することを要請した次第であるがマツクアーサー元帥は聯合國側が一旦第二の様なことを問題にし出した以上「主權在民」を本文に明記した方がベターであるといふ意見であると述べた。

當方より前文と本文とはその法的効果に於て何等異らないこと、主權在民を獨立の一章條として本文に規定するとすれば第一章は天皇に關する章であるから此の中に規定する譯には行かず、別に總則といふ一章條を設けてその中に戦争放棄の箇條等をも移して各々條の再編成を行はなければならず、右は目下の議會の審議状況にも儘み技術的に困難であること等を舉げて出来ることなら前文の修正だけで済ませ度い旨を述べた。これに對しケは自分はもう單なる聯合國のマウスピース

外務省

0513

RA'-0078

0275

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

に過ぎず、それによらざるも無きとも云ひ得ない立場であると
述べて、取り付く處がなから様子であったので、結局、當方とし
ては未だ何等確定してゐない状態であるが法制局長官個人の
意見を述べればと前置きして次の如く述べた。

今述べた様子を事情で修正の一々條を本文に入れることは明
難であるから、結局本文に「主権在民」を明記するとすれば
第一條「この地位は」の次に「主権の存する日本國民、」

「...will of the people with whom the sovereignty rests.
」と
し、如く修正するの第一案かと考へる。その對しは聯合國

総よりの申入では Sovereign powers reside in the people
とらよのもあつて主権は「國民」に存するのべ「國民意思」
に存するのではなから。従つて右の如く修正した場合「主権の
存する」は「國民」をモヤモヤイするのべ「總意」をモヤ
モヤイするのべ判然としなから思がある。そのべ、「主権

外務省

0514

（英文では sovereign will 主 supreme will 主 修正し

て）とらよ言葉を添して「主権の存する」は國民だけをモヤ
モヤイすることを明にして置く必要があると考へる。又別案
としては、「日本國民聯合會發起人」の前記「主権の存する」
を加へる。（ unity of the people in whom the sovereign powers
reside）

而してその場合は「主権の」にとらよことを削つても差支
へなからと思ふ。以上述べたことは自分の考であり、前文に於
て「主権が國民に存することを直書し、」とある以上
自分としては何も聯合國側が出来た

そのの條獨立に規定する必要なく長官
reside in the people
の云ふ條に第一條にそれを織込んでよから考へるのである。
従つて右の條を修正方法をとつた場合には前文の修正もその
儘残す必要があると述べた。

外務省

0515

RA'-0078

0275

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

〔長官は第四十條に「財産、収入又は教育」の語を加へること
は、して困難はないと思ふと述べた。

〔「ケ」は自由黨修正案として第八十條「皇室財産から生ず
る収益はすべて國庫の収入とし」を削除すべしといふのがあ
るが、右の修正は絶対に注意を要する。此の點は從來何度も
繰返し述べて来たところだが、一体何故右の修正を行ふのか
と質ねたので、當方はこれは皇室に對する國民感情であつて
何とか皇室に對し自由な小遣錢を弄上げたいといふ氣持の現
はれに他ならぬ。それに、貴官の云ふ如く世襲財産が収益を
齎す財産であるなら、國家に關するそれ以外の皇室財産か
ら生ずる収益が國庫の収入となるのは當然のことであるとい
ふ理由でこれを削除すべしとの修正案が出て来たものと思ふ
と述べた。〕ケ〕は此の點は世襲財産の範圍が未だ定まらぬ
事實（宮内省と總司令部經濟科學部との間で交渉中）而も宮

外務省

0516

内省が世襲財産の中に収益を齎すものを加へようとしてゐる
點に對し、是非とも疑して置く必要があると述べ、場合によ
つては収益を齎す財産も世襲財産の中に組入れられる可能性
を暗示し、幾令その場合でも、世襲財産から生ずる収益は國
庫に屬することとする必要がある點を明かした。

尚、〕ケ〕は皇室財産に關し、米政府が最初に指示して來
た案を讀み上げるから米政府の政策が如何なるものであるか
を參考にして賣ひ度いとて左の通譯を

" All property of the Imperial Household shall be the property of
the State. The entire income of the Imperial Household shall be
turned into the public treasury, and the expenses of the the
Imperial Household shall be appropriated by the Diet in the annual
budget"

外務省

0517

RA'-0078

0277

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

米政府の案には世襲財産に関する例外規定がないことを特に強調し、余り日本側が世襲財産にこだわるに於ては「世襲財産以外の」を削除される可能性あることを示唆した。

外務省

0518

四) 第四條第一項「政治に関する権能を有しない。」を自由黨修正案で「その他の國政——」となつてゐる點に付ては「それは何故に「その他の」を加へるのか、それでは國務 (state functions) と國政 (Government) とが同一レベンのものと云ふことになり天皇が儀禮的國務のみを行ふといふ意味がぼやかされて了ふ。折角前文及び第一條に於て主權在民を明文化しても、第四條で恰も天皇がそれを行使するかの如く規定したのでは何にもならぬと述べた。當方はこれに對し「國務」と異なるが國政の方が意味が廣く、國務といふ意味も國政の中に含まれる。従つて「その他の國政」としなると第一項前段の「天皇はこの憲法の定める國務のみを行ひ」といふのと矛盾すると説明したが、先方は納得せず、それでは、第三條、第四條乃至は第七條の「國務」の前に儀禮的といふ語を加へ天皇は儀禮的國務のみを行ふ旨を明確にする必要があると

外務省

0519

RA'-0078

0278

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

べ、その理由として第七條起案の際その第十項にその他の儀式を行ふこと一

Performance of other ceremonial functions

一として第七條に定める國務が凡て儀禮的であることを明かにしようとしたのを敢てその必要なしといふので削除した経緯を説明した。當方は第七條の國務が必ずしも凡て儀禮的でないことを挙げてその案をとり得ないことを説明した處先方は滿に先方が示唆したことのある「政治」の代りに「統治」又は「大權を有しない」とする案を示し或は又第三條と第四條を入れ換へる案等本問題の要點に觸れない修正意見迄をも持ち出して來て論議が盡きず、結局この點は未解決の儘會談を終了した。

0520

外務省

部長
副部長
課長



衆議院憲法小委員會の憲法草案修正案
に關しケイティス大佐等と會談の件(第一回)

昭和廿二年八月五日
終速、政、政

一經 終

衆議院憲法小委員會は八月二日憲法草案に對する修正に關し一應意見の一致を見るに至つた。翌三日山田部長、藤崎總務官及加藤總務官は先方の求めにより、芦田委員長を往訪したが、(天野參事官及島總務官同席)その際同委員長より

一この修正意見は假のもので、小委員會として正式に決定したものではない

二同委員長としては自ら進んで總司令部に出向いて報告説明をする意向はない

三前文の「國民の總意が至極なるものであることを重言し」云々

0521

外務省

RA'-0078

0279

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

を「主権が國民に存することを宣言し」云々と改むることとしたのは、英文の

の意をclaim the sovereignty of the peopleに改めたるのみで、又對内的にもさう言ふ場合に説明してあるから、この英文はいぢらず、元の體にして置くこととした

同第一條修正案の「日本國民の至高の總意」の「至高」を變ずること及第四條修正案の「その他の國政」の「その他」を變ずること及び付て小委員會の同意を得ることは困難ではなからう(當方よりこれらの點において小委員會の修正意見が總司令部の意向に合致して居ないことを指摘したので對し) 同第八十四條の皇室財産の取扱について「皇室財産から生ずる収益は、すべて國庫の收入とし」を削除することは、小委員會の委員の強い意見であつて、別に指令でも出されるのでなければ動かせないものと承知せられたい。すべて財産から生

外務省

0522

する収益がその所有者に歸屬すべきは當然のことであつて、特に皇室財産について民法の一般的規定と違ふこの様な規定を設けることは皇室に對する罰としか受取れない。皇室に罰を科すると言ふならば別に方法もあること何れも憲法條これをかり言ふ形で規定する必要はない、と言ふのが小委員會の支配的な意見である。

こと等を述べた。

よつて當方としては、右修正案の英譯が出来次第總司令部に連絡する手筈にして居たところ、本五日朝ケイデイス大佐より入江法制局長官乃至佐藤次長の至急來訪方を求めて來たので、取りあはず山田部長及藤崎總務官は修正案(日英兩文)をもつてケイデイス大佐を征訪、ハッシー氏、ローク氏、ピソソン氏及びゴルドン中尉等係官も同席して前後三時間餘に互り意見を交換した。

外務省

0523

RA'-0078

0280

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

總司令部制よりは修正案の全体について種々の要請が聞取せられたがその中特に重要なのは

(一) 第八十四條の修正は同時の趣旨を根本から要するものであると

(二) 「國務」・「國政」等の概念がはつきりせず、その爲主権在民の趣旨も失はれることとなる惧ること

の二點である。先方は既に何箇月も前から問題になつて居るこれらの點について日本政府の當局者から一向明確な回答が得られなかつた。かかる修正案が出たことを心外とし、明日中に回答を得なむ旨希望した。

皇室財産（第八十四條）の問題

この問題は關して、先方は如く

(一) 我々としては皇室財産の問題は主権の所在の問題と共に新憲法の最も重要な點と認めて居り第八十四條その修正せられた條を形になつてゐたならば、マソクアイサー元帥は初めからこの草案を承認しなかつたであらう（この條を根本的を點につらて修正が試みられる條を場合には事前に貴方に連絡するべきことを期待して居た）

(二) 本條の趣旨は皇座の經費を國會の機能に服せしめるに在る。英國の國王もその御世の初に議會から定額を定められ、年々豫算の形で經費の支出を受けて居る。

(三) 皇座財産についても財産税がかけるべきことは昨年十一月二十四日附勅令第三三七號に明示せられて居る。然るに金庫氏は議會に於いて皇座財産には財産税法の適用をなしと答辯し

たかに開き及んである。

何首内省方面では hereditary estates の中に株券や債券類を認められようとしてあると言ふことであるが、この條文の起草に當つた際が決してさう言ふ心算でなかつたことは日本側でもよく解つて居る筈である。本條の除外例になるのは宮城・離宮・御苑等の天皇が日常生活上利用せられる不動産と天皇の身邊の物品類丈で Intangible wealth は一切除外例に入れらるべきではなからう。

國我々は天皇もこの條を皇室財産の處分は別置せられたと上方から聞かされて居る。しかるに本條の趣旨に反する條が冒動が續けられるのは皇室に依存して居る一部の者が自己の利益の爲に策動して居るからではなからうかとも考へられる。そしてその爲に却つて天皇御自身の利益が害せられる結果となることを惧れる。我々は決して天皇を害害に阻れるよきを欲するも

外務省

0526

のイは表す。

皇室は國會の同意を得て國庫から必要なる經費の支出を受けられればよすはなからうか。

等の所見を附随し、結語 other than the hereditary expenses as defined by the Diet (or by law) Allowances of expenditure of the Imperial Household shall be appropriated by the Diet

のが先方の修正意見である。しかるに會談を終了して歸國するや問もなくケイダイヌ大佐より電報あり、ウイトニー代將に報告したところ、右の修正案見はだめ、結局小委員會の修正案の趣にする事とは other than the hereditary expenses 文句を削除すべしと言ふことだつたと報告されて来た。

當方より「皇室財産から生ずる収益はすべて國庫の收入」とするごとの不能理を指摘したるに對しては他方は特に反駁せず

外務省

0527

RA'-0078

0282

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

問題は一、^世憲法改正の意圖が如何なるかを言ふに於て其の範圍を
 國會に限定するを言ふこととを辯論す。國會を以て其の範圍を以
 たるに固むるの事なるが、憲法改正の意圖が如何なるかを言ふ
 尙ほ其の一法條の定めを以て其の範圍を以て言ふこととを辯論す。
 殊するものを先方では解して、得る。憲法改正の意圖が如何なる
 有對憲法に於て其の意圖が一國、後方では言ふこととを辯論す。
 なつて居るとのことである。

外務省

0528

天皇の権能に關する問題

修正案で第七條第二項として「天皇は、内閣總理大臣の指名
 に基いて、最高裁判所の長たる裁判官を任命す」と言ふ一項
 を入れようとして居る點に關して、マイデイス大佐は「從
 來日本側では常に天皇は少しでも多く權能を持たせたいと言ふ
 傾向のみを表現して來てゐるが、この修正案もさう言ふ權能の
 眼を以て見ない譯に行かないと述べたので當方より「本項はそ
 の内容實質において、第六條と變りなく、又その趣旨は司法權
 の行政權に對する對等的地位の一確立にある」ことを説明した
 ところ、本項の説明としてはこれを納得した。しむし第四條修
 正案が「その他の他の國政に關する權能を有しない」となつて居る
 爲、國政と國政との關係、權能の意義等の問題が蘇り返された。
 そして先方は、若し日本側で、日本語ではこれ以上明確な表現
 が出來ないと言ふことならば、英文の方を採る外ないとして、

外務省

0529

RA'-0078

0283

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

その端で次の様な修正意見を述べた。

第三條

All acts of the Emperor in matters of state

in matters of state

を制する。

第四條、第五條、第七條の

state functions

等々を

は

acts

に

ceremonial

の字を附ける。

併し此方より、英文の方には問題はないわけで、問題は日本文にある次第だから、今一應關係者を協議することにした。述べたところ、先方はこれを譯とし、明日中に回答せられ度いと述べた。先方の言分は大体左の通りである。

この憲法は主權が國民に在り、その主權の内容たる立法、司法、行政の三權がそれぞれの機關によつて完全に掌理せられて居ると言ふ民主主義の大前提の上に立つものである。責任内閣の所屬 responsible government

責任内閣の所屬 responsible government

外務省

0530

任をもち得る政府を意味するものであつて、この點は聯合國の間でも論議せられて一致を見だ點である。従つて天皇に國家の事務ついでにしては、國家が持つべき言ふべきは何として許されなくてはならない。

天皇の function が ceremonial

ののである。

function

power

と述べたことは、日本國書局に於いては、
よく了解されて居る筈である。第七條の修正點は原案では

Other ceremonial functions

を以て居たが、
ceremo-

nial

を以て居たが、これを削いだのである。

天皇が「國體」に關して何等かの「機能」をもつことは内閣の機能と規定する第六十九條第一號で「國體を顯現する」機能の内閣に與へられて居ると手置するではないか。

天皇の Symbol として規定した。前述な様な趣意によるもので

である。

外務省

0531

RA'-0078

0284

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

問要するに、既に主権在民と云ふことが明確にされた今日、か
し百上細かい點に拘泥することは無意味なことであります。

外務省

0532

其の他の問題

(一)納税義務に關する修正案第三十條は「國民は、法律の定めるところにより、納税の義務を負ふ」となつて居るが、在留外國人にはその義務がないこととなるのかと質問したので、然らずと答へた。

右國民には天皇を含むかと言ふ質問に對しては回答を差控へた。

(二)草案第三十條(修正案第三十三條)は會狀がなければ逮捕が出来ないと言ふのでは餘り窮屈ではないかとの意見があつた。「権限ある司法官」とは如何なる者を意味するかと言ふ質問に對しては、如何なるものが権限あるものとせられるかは法律で決められることになると答へた。

(三)最高裁判所の構成に關する修正案第七十九條は前述天皇の權限問題に關聯して留保せられた。

外務省

0533

RA'-0078

0285

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

同草案第七十七條は日本語では最高裁判所の事が違憲か否かの
 決定をする権限を有する様になつて居るが、さうすると、小
 事を事件維持も込まれて、最高裁判所としては困りはしない
 か、又英文では、最高裁判所が右の場合の最終審であること
 を規定して居るに過ぎないので、其の間は非常な相違がある。
 この規定は元來違憲問題は國會を以て最終審とするとの意見
 があり、これが通けられて最高裁判所とすることになつたの
 で、英文でもかり言ふ規定の仕方をして居るが、英文の方も
 さう言ふ言葉を抜きにして讀めば違憲なものだからこれを次の
 通り修正したら如何かと願ふ。
 The power to determine the constitutionality of any law, order,
 regulation or official act shall be vested in the Supreme Court
 and in such other court as the Diet shall determine.
 ↑右以外に於ては、修正案に對し別段異議なしと言ふこと
 ↑であつた。

外務省

0534

ケイデイス大佐の一般的所見
 修正案について一通り検討を終へた後ケイデイス大佐より全
 般的問題について所見を述べたが注意すべき點を摘記すれば左
 の通り。
 (一)國民の意思により政体を決定すると首ふことがホツダム宣言
 に掲げてあるが、それには二つの方法があるとされて居る。
 一はイタリイでやつた様に國民投票によるやり方であり、他
 は今日日本でやらうとして居る様に、主權をばつさり國民の手
 中におく憲法を制定すると首ふやり方である。
 (二)これ迄何箇月かの間日本側の當局者と憲法改正のことについ
 て交渉を重ねて來たが、日本側からは將來の天皇の地位を出
 來る支維持しようとする方向の意見許りで、その反對の方向
 の意見は未だかつて一度も述べられたことはない。しかし天
 皇制を維持する爲にはそれが純粹に義務的存在であることを

0535

RA'-0078

0285

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

部長
副部長
課長

明確にすることが絶対に必要である。
 ③戦争終結當時は天皇は戦争犯罪人となすことさへ考へられ、
 天皇制反対の聲が沸かつた。それをどこ迄引張つて来たマツ
 タアーサー元帥の努力は並々ならぬものである。この際天皇
 の権限、皇室財産等の根本問題について、聊かなりとも聯合
 國に尊重の餘地を與へることは右の様なマ元帥の立場を極め
 て困難ならしめるものである。
 判かり言ふことは、ずつと上の方では御互によく了解して居ら
 れる様に聞いて居る。我々の間でも勿論よく解つて居る譯だ
 しかし十分に廣く認識せられて居ないと言ふことに、すべて
 の問題の原因がある様に思ふ。

0536

外務省

衆議院憲法小委員會の憲法草案假修正案に關し
 ウイトン代將及ケイティス大佐と會談の件
 (第二回)
 昭和二十一年八月六日
 終速 政、 政、 政

二條條
 昨五日ケイティス大佐等と會談の結果を連絡の爲、山田部長
 及藤崎連絡官は議院内に金澤國務相、入江法務局長官、佐藤次
 長等と會同した。片田委員長は途中から同席(其の結果
 ①天皇の権能に關する點については第三條、第四條、第五條及
 第七條の夫々の部分すべて「國事に關する行爲」と改める。
 第四條の「その世の國政」の「世」をとる。
 ②修正案第三十條の國民の納稅義務については、本條の論理的
 解釋としては「國民」は天皇を包含しと解する外ない、但し税法
 において例へば官廳種物を免稅とする様に皇室財産のあるも

0537

外務省

RA'-0078

0287

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

のを地帯とする^除ことはあり、又本條は外國人に對する課税を對する趣旨ではないと解する。

③草案第三十條の「通關」はこのままの方が國民の權利を確保する點から^{ナカ}の^{ナカ}のである。

④草案第七十條は英文の通りに改める元來第七十七條第一項は他の條項との關係上疑問の點があるので英文との關係は別にしてもむしろ改める方がよい

⑤草案第八十四條については差當り見解を表明することを差控へる、廣田委員長から「法律の定める皇軍の支出は豫算に計上して國會の議決を経なければならぬ」だけにして他を全部削ることにしてはどうか、「皇軍の財産はすべて國に屬する」は總論的規定と考へられるから憲法の本條に規定する要なしと思ふとの意見があつた。

↑と書ふことに意見の一致を見た。

外務省

0538

よつて本日午後三時入江次郎局長、山田部長及藤崎連絡官はケイアイヌ大佐を任助した。先づ入江長官より小委員會において一層意見がまとまつたので、この國會にその際正案について連絡の爲來函した旨を前讀として、問題となつて居る各條につき説明した。

外務省

0539

RA'-0078



主権及天皇の権能に関する問題

當方より前記(一)(二)の修正案を示し、若しこれによいと
言ふことならば、政府として議會側に働きかける用意ある旨を
述べた處、ケイデイス大佐はモルドン中尉を呼び入れて、用語
の調査を催めた上で、「國事に関する行爲」なる表現は適當な
ものとしてこれに賛成し、英文の方がまらまらの字句を用ひて
居るのに較べて却つてよいと思ふと述べた。これにより最高裁
判所の長たる裁判官が天皇が任命することに改めることによつ
ても固より異議なく、却つてその方がよいと思ふと述べ、昨日
の留保を撤回した。

主権在民の英文における表現方法の點に關し、前文は元の儘
とし、第一條の「至高の權意」の「至高」をとることにも同意
した。第一條の英文は最後で *with whom resides sovereign power* を附
加することになつた。

外務省

0540

尙第四條第一項について、モルドン中尉より「日本文は英文
と違つて一つの文章にしてしまつて居るが、それでは前の方が
力が弱くなつてしまふから、やはり二つに切つた方がはつきり
すると思ふ」と述べ、ケイデイス大佐も「兩者は

で結ばれる關係にあるから、日本文が *and* で結ばれて
居る點を感じをもつて居ると具合が悪い」と述べたので、當方
から「*and* とか *with* で結ばれると前の方は *only* を見落し
て居るもので、*although* *but* 兩者の關係は論理上 *therefore* と解すべきものであ
る、又もし日本文で區切るとすれば、短く二つの文章で「天皇
と言ふ主語も繰返さなければならず、極めて關係をいをかした
條文となる」と述べた處、先方はこれを諒承してその提議を繼
続した。

又「天皇は國政に關する權能を有しなから」の「國政」は「統
治」の方がよいと言ふモルドン中尉の意見に對し、當方より「統

外務省

0541

RA'-0078

0289

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

する「に」について、ケイデイス大佐は「本場は非常に適當な規定で、海外に對しても好い印象を興へるであらうと信ずる」と述べ、これを稱讚した。

修正案第三十條の「國民」の納稅義務に關聯しケイデイス大佐は「實は數日前ある聯合國から要求があり、英文で People となつて居るところと Person となつて居るところが、日本文では夫々どうなつて居るかを、ローマ字で示す様と書ふことでその通り知らせてやつたが、その後何とも言つて來ないところを見ると、あれで満足したものと思はれる。自分が日本文の方に脚注邊になつて居るのも、さう言ふ事情があるからで、この憲法草案は世界中の眼が注視されて腕んで居る次第である」と語つた。

外務省

0544

四 皇室財産の問題

先づ入江長官より「貴方の意図は議會側も然るべく傳へるが政府としてはその結果について約束は出來ない」との趣旨を述べ、先方はこれを諒解した。ワイトニー代將に面會するに先立ち、ケイデイス大佐及びビーク氏と事務的に話した主なる點左の通り。

〔英國の王室の財産〕

ビーク氏より英國王室は議會からその經費の支出を受けられるが、この所謂 Civil List 中には國土の *patent* である一項が含まれて居てこの金は全く國王のポケット・マネーになるわけである。その外にも英國土は私有財産をもち、それからの収入を得るがこれに付ては國民のみが税を納めることによつて一般の財産権者としての収益の権利を獲得するものとも見られ得ようと説明した（この點は別日の話と少し違ふがこの

外務省

0545

RA'-0078

0291

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

方が正しいことを確めた。

(二) 第八十四條と第八條との關係

司令部側では原案通りとするものと、「世襲財産を除く」を削除する新案とは例れをとつても異存はないが、後者の方が日本側より有利であらうとし、その理由として「新案によれば皇室は一旦は一切の財産を失ふことになるが今後豫算から得られる經費を節約し又第八條によつて獻上せられるもの等により私有財産 *private property* として行く道が開かれて居る、然るに原案では如何に財産をもつても收入は手に入らずタイトルをもたれるたのである」と述べ、更に例として「東京の官職は公的なもの認められるから不可能と思はれるが、京都御所の如きを第八條により議會が獻上方議決すれば天皇の *personal property* として當方から第八條により獻上したものはすべて大皇の

外務省

0546

0547

私有財産になるか、又第八十四條は皇室の公の財産に關するもので本條は私有財産をカバーするものではないと解するがそれで正しいかと念を押ししたところ得れも然りと答へた。もしその通りとすれば新案が原案より皇室に有利であると首上意味が判らなくなるので、その後ワイト *White Paper* 一代新と會見後更に

第八十四條の

all property of the Imperial Household

と

とは異なる意味を有するやと問うたところ「然り *Imperial Property*

前者は皇室の公の財産のみを意味し、後者は大皇の私有財産も含む、それだからこそ新案の方が皇室に有利であると首上わけだ」と答へた。

(三) 三種の神器の御題

當方より「若し世襲財産の除外例を認めぬこととなれば皇室に屬するものは私有財産のみとなる筈である、然るに三種の神器は天皇の私有財産とも首へないと思ふが如何」と述べた

外務省

RA'-0078

0292

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

ところ「神壽の問題はこれ迄一度も出なかつたが神壽を大蔵省の所管に移す等と言ふ様なことは誰も思へなかつたりし、常識的に考へてこれに所謂^{皇室}財産に入るとは認められぬ、元來これに皇室財産と言ふのは経済的價値の観点から懸念せらるべきものである」と述べた。

外務省

0548

マイトニー代將との會談

マイトニー代將は先づ「皇室財産に關する憲法草案の規定を修正しようとの試みがある處であるが、御承知の通り、この憲法草案はマツタアサー元帥の承認を得たものであり、吉田總理・幣原大臣も同意せられ、天皇陛下もこれを承認せられて、天皇が政府に命じて議會に提出せられたものである。併し乍ら初から今回の修正案の様な形になつて居たら、マ元帥は決してこれを承認しなかつたであらう。マ元帥はこの憲法草案を以て手ぬるしとする世界の輿論に對して敢然として唯一人で對抗して來た。今度の修正案は、この様に日本國民の爲、皇室の爲に全力を捧げて來た同元帥の立場を弱めるものであり、惹いては、天皇御自身の不利益をも招來する結果となるであらう。そこで自分としては、既にケイアイヌ大佐からも断があつたことと思ふが、一切の皇室財産は國に屬する。皇室の支出は議會の議

外務省

0549

RA'-0078

0293

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

決を得なければならぬ」と再修正することを勧める。さうすることゝが皇室の爲になるのである。日本政府内に皇室財産のことについて妨害的行爲に出るものがありとすればそれは天皇の爲を思つてのことかも知れないが、結果は却つて逆になることと必至であつて、思はざるの甚しきものと言はなければならぬ」と述べた。

これに對して入江長官より「日本政府としては既に原案に同意して居ることは仰せの通りであるが、今度の修正案は議會側から出て居るものである。そして議會は政府の思ひの儘にならぬといふ實情を了解せられたい。政府としては貴方の意向を然るべく議會側に傳へるが、それ以上のことは約束出来ない。ついでには貴方からも直接議會方面に接觸して貰へまいか」と述べたところ、

外務省

0550

ウイトニー代將は「この問題は極めてデリケートな問題で、さう多勢の人に話せる様な事例ではない。貴方のサヂエストする新案は原案よりも日本に對してリベラルになつて居るが、さう前より寛大なものをお我々が日本側唯一生懸命で勧めたと言ふことがもし共産主義者にも知れたら、どんなに具合の悪いことになるか考へて頂きたい。マ元帥としては此の聯合國の手前を考へなければならぬのである」と述べた。

そこで入江長官から「原案通りでも、貴方の再修正案でも何れを探つてもよいのだと了解してよいか」と質ねたところ、ウイトニー代將は「さうだ、我々としては何れを探られようと構はないが、後者の方が貴方にとつて有利になつて居るから、その方を探ることを勧める。」

この憲法が成立して後は、最高裁判所が最後の決定權をもつて居るので、天皇の財産を何りして行くかも日本側限りで何

外務省

0551

RA'-0078

0294

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

りにでもなる譯である」と答へた。
よつて入江長官から「日本政府としては、この憲法成立後、
皇室財産法を制定して、皇室財産の範圍等についても規定を設
けるつもりである」と述べたところ、ウィットニー代將は「それ
は固より日本側で適當に處置せらるべき問題である」と述べた。

外務省

0552

RA'-0078

0295

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

早返却

終連政府

海軍甲

附帯決議

憲法

八月十三日 上議員会

0553

憲法改正案は憲法附屬の諸法典と相俟つて始めてその運用の完全を期待しうるものである。然るに皇室典範、参議院法、内閣法其の他多数の各種法令は未だその輪廓さへ明かでないために、憲法の審議に當つても徹底を期し得なかつたことは、深く遺憾とするところである。政府は速に此等諸法典と起草し、國民の輿論に問ふ準備となすべきである。

改正憲法の生活權、勞働權等の經濟的基本權を確立したことは時代の要求に即應する適切な措置であるが、然しこれ等の權利の裏付となるべき諸施設は、現状では頗る不十分なものである。政府は速に廣汎な社會政策を樹立し、當面の失業対策、社會保障制度の確立と同時に、他面生産の増強を圖り、以て經濟再建の促進に萬遺漏なきを期すべきである。

参議院は衆議院と均しく國民を代表する選舉せられたる議員を以て組織すその原則は之を認むるも、之のために衆議院と重複する如き機關となり得ることには、その存在の意義を没却するものである。政府は須く此點に留意し、参議院の構成については、努めて社會各部門各職域の知識經驗ある者からその議員となるに容易なるよう考慮すべきである。

四 憲法改正案は、基本的人權を尊重し、民主的國家機構を確立し、文化國家として國民の道義的水準を昂揚し、進んで地球表面より一切の戦争を驅逐せんとする高遠な理想を表明したものである。然し新しき世界の進運に適應する如く民衆の思想感情を涵養し、前記の理想を達成するためには、國を擧げて絶大の努力をなさなければならぬ。吾等は政府が熱情と精力とを傾倒して祖國再建と獨立完成のために邁進せんことを希望するものである。

RA'-0078

0295

一 憲法改正案は憲法附属の諸法典と相俟つて始めてその運用の完全を期待しうるものである。然るに皇室典範、参議院法、内閣法其の他多數の各種法令は未だその輪廓とへ明かでないために憲法の審議に當つても徹底を期し得なかつたことは深く遺憾とするところである。政府は速かに此等諸法典と起草し、國民の輿論に問ふ準備をなすべきである。

二 参議院は衆議院と均しく國民を代表する選挙せられたる議員を以て組織すとの原則は之を認めるとするも、之がために衆議院と重複する如き機關となり終ることは、その存在の意義を没却するものである。政府は須く此点に留意し、参議院の構成については、努めて社會各部門の知識経験ある者及び職能代表者がその

議員となるに容易なるよう考慮すべきである。

三 憲法改正案は、基本的人権を尊重して、民主的國家機構を確立し、文化國家として國民の道義的水準を高揚し、進んば地球表面より一切の戦争を驅逐せんとする高遠な理想を表明したものである。然し新しき世界の進運に適應する如く民衆の思想、感情を涵養し、前記の理想を達成するためには、國を挙げて絶大の努力をなさなければならぬ。吾等は政府が熱情と精力とを傾倒して、祖國再建と独立完成のための邁進せんと希望するのである。

あ

Supplementary Resolution

August 13, 1946.

1. The new Constitution can be expected to operate satisfactorily only in conjunction with the various laws supplementary to the constitution. It is deeply regretted that owing to the fact that such laws--the Imperial House Law, the House of Counsellors Law, the Cabinet Law and many others--remain yet undefined even in bare outlines, it has not been possible to carry out the deliberation of the draft constitution as thoroughly as desired. The government is urged upon to draw up speedily these laws and get ready to submit them to public opinion.

2. That under the new Constitution the fundamental economic rights such as the right to a decent living and the right to work have been established is a measure well adapted to the requirements of the age. Only the various facilities for securing these rights are sadly lacking under the existing conditions. The government should immediately inaugurate a comprehensive social policy, and leave no stone unturned in the way of hastening economic reconstruction by formulating the counter measures against unemployment, setting up a social insurance system and strengthening the production expansion program.

3. As regards the House of Counsellors, the principle that it will be composed of elected members representing the people as in the case of the House of Representatives is to be recognized. However, if on that account it should prove to be a mere duplica-

tion 0555

- 2 -

tion of the House of Representatives, its very existence will be rendered meaningless. The government, having this point in mind, should consider the organization of the House of Counsellors with a view to facilitating as far as possible the election thereto of men of knowledge and ^{experience} learning from all the various occupational circles.

4. The draft Constitution enunciates the lofty ideals of establishing firmly a democratic state structure through respect of the fundamental human rights, of elevating the ethical standards of the people as a civilized nation, and furthermore of eliminating all wars from the face of the earth. But in order to realize those ideals by moulding the people's thought and emotions in harmony with the world's new spirit of progress stupendous efforts are required on the part of the entire nation. We hope that the government will strive with all its ardor and energy to achieve the rebuilding and a complete independence of our land.

0556

RA'-0078

0298

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

Concerning Article LXXXIV

The other day an amended text as below for Article LXXXIV of the draft Constitution was submitted by ^{Brig. Gen. Whitney} General W. as a suggestion to the Director of the Legislation Bureau.

All property of the Imperial Household shall belong to the State, and all expenses of the Imperial Household shall be appropriated by the Diet.

The purport of the proposed amendment is fully understood and appreciated from the explanation given by the General on the occasion. Only it is considered more rational to arrange the above text in the following manner.

Article LXXXIV is made to read:

"All expenses of the Imperial Household shall be appropriated by the Diet."

And next to Article XCVI another supplementary provision is added reading:

"All property of the Imperial Household shall belong to the State."

The reason for transferring the first part, "All property ----- to the State" to the Supplementary Provisions chapter is as follows:

(a) The original Government draft of this sentence contains the phrase "other than the hereditary estates," thus explicitly recognizing the hereditary estates by Constitution. As such the

said

0557

- 2 -
after the transference of all Imperial properties other than the hereditary estate is for some reason to be excluded from the hereditary estates, the said piece of land will come to belong to the State under this provision.

said draft text has the raison d'etre as a permanent constitutional provision, because in case part of the hereditary estates--say, a portion of the Palace grounds--even after their transference to the State is for some reason ~~to~~ to be excluded from the hereditary estates, that the said piece of land will belong to the State is stipulated by this Article of the Constitution.)

However, if we delete the phrase "other than ~~the hereditary~~ estates," as suggested by General W. ^{W.} the sentence loses all significance as a permanent provision. For once that all property of the Imperial Household has come to belong to the State, there will exist no longer any Imperial Household property, rendering it altogether unnecessary to keep a provision relating to it in the Constitution. Accordingly, the suggested amendment becomes essentially a transitional provision as are Articles XC and C, and as such it should be included among the Supplementary Provisions.

It may be further observed that the purpose of such a temporary provision can be readily achieved by a simple transaction once and for all between the Imperial Household and the Government. In fact, on this very ground there is strong opinion in the Diet, favoring the omission of this ^{provision} ~~Article~~ from the Constitution. Should you be inclined to accept such a view, we would be delighted. But even if it is unacceptable to you, it is hoped that at least the transference of this ^{provision} ~~Article~~ as above will be ^{approved} ~~permitted~~.

0558

RA'-0078

0299

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

Memorandum
on the Interpretation of
Articles VIII and LXXXIV

1. On Article VIII.

It is understood that the giving and the receiving of property as an ordinary economic transaction is a matter outside the scope of application of Article VIII.

2. On Article LXXXIV.

It is understood that the private properties of the Emperor and of the members of the Imperial Household are not included in the "property of the Imperial Household."

Note: The above are the points that have been made clear by you. They are recorded herein lest no doubts should arise in the future.

0559

RA'-0078

0300

"The Laws of England"
by Earl of Halsbury, Vol. VII

1) Sources of the Hereditary Revenue.

The hereditary revenues of the Crown are derived principally from such lands as are or may become vested in the Sovereign in his body politic in right of the Crown; and they have, in general, been rendered inalienable except in accordance with statutory provisions (a).

(P. 108)

.....

2) Surrender of the Hereditary Revenue.

Since the accession of George III. (x) it has been customary for each succeeding Sovereign to surrender the hereditary revenues to the nation for the term of his life (y), in return for a fixed annual income, known as the Civil List (z).

(P. 109)

.....

3) Sources of the Private Revenue.

The revenues which the Crown enjoys for the upkeep of the royal household, or for the Sovereign's private enjoyment, are derived from (1) the annual income, known as the Civil List, granted by Parliament out of the public funds in the manner previously stated (a). This is apportioned to meet the various heads of the expenditure required for the maintenance of the royal household, the privy purse, and of certain members of the Royal Family (b); (2) the revenues of the Duchy of Cornwall (when not vested in the Prince of Wales) and the Duchy of Lancaster, and of the Principality of Scotland (when not vested in the Prince of Wales), which, though of a hereditary nature and descendible with the Crown, have escaped the operation of the various Civil List Acts and consequent surrender (b); and (3) the revenues derived from such estates as the Sovereign enjoys in his body natural as distinct from his body politic, of which, not being subject to any hereditary rights, he may dispose freely, although the manner in which such estates may be dealt with is regulated to a large extent by statute (c).

(P. 111)

0560

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

4) Annuities and Pensions.

In return for the surrender of the hereditary revenues (1) there is to be paid for the King's civil list during the present reign and six months thereafter the yearly sum of £470,000 (2), to be applied to the following classes of expenditure:

- (1) Their Majesties' privy purse £110,000
- (2) Salaries of His Majesty's household and retired allowances 125,800
- (3) Expenses of His Majesty's household 193,000
- (4) Works 20,000
- (5) Royal bounty, alms, and special services. 13,200
- (6) Unappropriated 8,000 (L).

The Treasury is empowered to direct, at the end of any calendar year, that the surplus of the sum appropriated to any class may be applied as an addition to the sum available for any other class (2).

(P. 271)

.....

5) Definition of Statutory Private Estates.

With regard to real property, the private estates of the Crown, as statutorily defined, consist of such lands, hereditaments etc. of any tenure as are purchased out of moneys issued and applied for the use of the privy purse, or coming to the Crown in any manner from any ancestor or other persons not being Kings or Queens of the realm, or which, belonging to the Sovereign or any persons in trust for the Sovereign at the time of his or her accession, might have been legally disposed of by gift, sale, or devise (2).

This definition was subsequently extended to such private estates of the King or Queen as became vested by gift, devise, or disposition made by such King or Queen in any person who at the time of vesting or afterwards may be or become King or Queen of the realm, unless a contrary intention is expressed in the gift, devise, or disposition (2).

(P. 274)

.....

0561

6) Taxation of Private Estates.

Crown private estates are subject to all rates, taxes, duties, assessments, and impositions, parliamentary or parochial in like manner as the property of any subject, and (whilst the private estates are vested in the Sovereign or in any person in trust for the Sovereign) such rates, taxes, and other charges are to be ascertained, rated, assessed, or imposed as in the case of the property of a subject. Accounts of the rates, taxes, and charges are directed to be returned to the person exercising the office of Privy Purse, and are to be paid out of the privy purse and in no other manner (c)

(P. 277)

.....

0562

RA'-0078

0301

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

作

皇室財産及経費に関する問題

昭二、八、二、終連改政

西谷 小野

帝國憲法改正案第八十四條
世襲財産以外の皇室の財産は、すべて國に属する。皇室財産から生ずる収益は、すべて國庫の收入とし、法律の定める皇室の支出は、豫算に計上して國會の議決を経なければならぬ。

一、本問題に關し先般来ウイットニー代將及ケインデニス大佐と會談の結果を取纏めれば大要左の通りである。

(一)八月二日衆議院憲法委員會小委員會は右傍線箇所を削除する修正案を假決定したが、總司令部は右修正案に對し強硬に反對し居る。其の理由は、これを要する

外務省

0563

二、聯合國の間には天皇制を全廢すべきとの強い意見がある。従つて若し日本國民が天皇制を維持し度いと言ふことなれば、政治的には天皇の一切の統治権能を廢し、経済的には皇室財産を國に歸せしめ所謂「天皇財閥」を解体することにまつて、天皇制の存續が將來に禍根となる惧れの絶對にないことを、この憲法で明確にすることが必須の要件である。この憲法改訂案はかう言ふ趣旨で出来て居る。即ち皇室財産の問題は主權の所在の問題と相並んで、この改正憲法の二大眼目であり、今回の称名紛更は許されないところである。若し憲法改訂案の本條がこの修正案の称名形になつて居たならば、マツアブーサー元帥は決して憲法改正案に承認を與へなかつたであらう。と言ふのは、それは聯合國に對し、マ元帥の對日政策に對し容喩

外務省

0564

RA'-0078

0302

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

の餘地を與へることにたり、換言すればマ元帥の天皇制支持の立場を極めて弱化するものなるからである。マ元帥は天皇制存続の爲他の聯合國に對して殆んど激軍奮闘して来たが、マ元帥の對日政策に對して他の聯合國が容喙する餘地を與へることは結果日本國民の爲にも、皇室の爲にも不利な解に難くないであらう。」と言ふのである。

の結果

Grid for handwritten notes on page 0565. A horizontal arrow points from the right side towards the left side of the grid.

0565

外務省

世襲財産に「法律の定める」と言ふ限定を附加すると言ふことで、本條修正案を容認すると言ふことに「應詔会」がついた。

(三)然るにその後、總司令部側が上司に報告した結果、右の妥協案は採用せられず、これに代るに、小委員会が修正案より更に「世襲財産以外の」を除く再修正案を提示して来た。即ち皇室財産から生ずる収益をすべて國庫に帰属せしめることを止める代りに、皇室の世襲財産と言ふものを認めないで、すべしの皇室財産を國に属するものとすると言ふのである。總司令部は、原案に復歸しても、又右の再修正案を採用しても、何れもまよいが、後者の方が皇室有利であらうと言ふに居る。その理由は「前者の場合、皇室は「タイトル」だけの財産家にはあるが、それからの収入は何時迄たつてもその懐に入らな

0566

外務省

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

0303

RA'-0078

然るに後者の場合は、一旦は課に在るが、その後海内帯金の節約、第八條による獻上等によつて、私有財産を作り上げ、行くことが出来る」と言ふのである。

四、總司令部は叙上の如きその所見にフイは上司の承認を得居ることを仄めかして居り、畢竟に他の聯合國に對するマウワアサイ元帥の機微なる立場と言ふものを強調して居る。前記二の妥協案に對する反對理由と言ふのも、結局はこれにあるので、先方係官も「この案自体には、然るとは何等反對すべき理由はない、併しこれだけでは、この憲法によつて天皇財團は完全に解体せられたと言ふことを他の聯合國に對して主張し得ず、これを突込まれると困るから、これに同意出来ぬ次第がある」と説明して居る。

二、叙上の維持を考慮すると、この問題の解決の爲の對策としては、

外務省

0568

左の如きものが考へられる。

一、第八十四條中、皇室財産に関する部分を全部削除し、經費に關する部分のみを残す

二、原案を復歸する

三、先方の再修正案を飲む、但し一定の財産にフイ議會が第八條により議決せんとする場合總司令部におい、これを容認すべき旨の諒解を取付けたい

四、前記一、二の世襲財産を法律で限定することとする(妥協案)
案はもう一度押して見る (Resolving estate as defined by the Act)

五、第八十四條の第一項は大体先方の再修正案通りとし、第二項として、「皇室は議會の承認を経て世襲財産を有つことが出来る、その世襲財産の収入の帰属は議會の定むること

外務省

0567

うにやる」と言ふ趣旨の規定を設ける

しかるに、(一)は天皇財閥解体の趣旨より不十分とされる公算が
多くと認められる。(二)は問題ない訳であるが、そこに行くと
も(一)押しするとすれば、(三)乃至(五)と言ふことになる、ところが(三)
は條件の方が満たされるかどうか疑問である、(四)と(五)は實質上
同じであるが、一應(四)をやつて見ると、やはりいけなうと言ふことである
なれば、少し形を変へた(五)にもつて行くと言ふのが、差當り考へ
られる行そ方ではないかと思はれる。

外務省

0569

RA'-0078

0305

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

My dear General,

With reference to Article 84 of the draft constitution, it was originally the view of our Government that all properties of Imperial Household other than hereditary estate and the income derived therefrom should belong to the State. In the course of my discussion with General Whitney concerning the present draft, I raised the question of amendment to the above effect, but the General told me that it would be better to leave the question open for discussion in the Diet. Although we felt some hesitation to put this question before the Diet for free discussion, we did so as the General was of the opinion that it would be a more dignified course to take. So, following consultation with the Government parties, this question was duly submitted to the Diet for deliberation, with the result that a sub-committee has now adopted a recommendation to delete the first part of the second paragraph of the said Article, which reads: "The income from all Imperial properties shall be paid into the national treasury, and".

However, General Whitney, having, I am told, objection to this proposed amendment suggested as an alternative a provision which in substance will read "All property of the Imperial Household shall belong to be the State. The expenses of the Imperial Household shall be appropriated by the Diet".

Since the Government had first left open this question for free discussion by the Diet, it would find itself in a very awkward position now if it were to exercise its influence on the Diet sub-committee for reversion to the original Government draft. It would, it seems, certainly be unwise to exert any pressure on the committee to make it accept

the

0570

- 2 -

the same by referring directly to the intention of the G.H.Q.
Therefore, it is my earnest desire that the G.H.Q. will find its way to approving the amendment as proposed by the sub-committee so long as it does not conflict with fundamental principles.

Yours sincerely,

0571

RA'-0078

0306

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

In the course of ^{my} ~~our~~ discussion with General Whitney concerning the present draft,

My dear General,

With reference to Article 84 of the draft constitution, it was originally the view of ^{our} the Government that all properties of Imperial Household other hereditary estate and the income derived therefrom should belong to the State. Immediately after the

decision of the present draft ~~when~~ I raised the question of amendment to ^{the above} ~~the above~~ effect, General Whitney ^{that it would be better} told me to leave the question open for ^{to discuss} ~~discussion~~ in the Diet. Although we ^{felt some hesitation} ~~did not want~~ to put this question before the Diet for free discussion, the

General was of the opinion that it would be a more dignified course to take. So, following consultation with ^{the} Government parties, this question was submitted to the Diet for ^{duly} ~~discussion~~ ^{deliberation} and a sub-committee has now adopted a recommendation ~~to~~ ^{with the result that} ~~in~~ connection to delete the first part of the second paragraph of the said Article, which reads: "The income from all Imperial properties shall be paid into the national treasury, and".

However, General Whitney ^{having, I am told, objection} ~~is said to have (raised)~~ objection to this proposed amendment ^{on the ground it is fraught with various} ~~sorts of danger~~. I am told that he ^{and suggested} ~~is suggesting~~ as an alternative a provision which in substance will read "All property of the Imperial Household shall belong to the State. The expenses of the Imperial Household shall be appropriated by the Diet".

Since the Government had first left open this question for free discussion by the Diet, it ^{would} ~~will~~ find itself in a very awkward position ^{if it were to exercise its influence} ~~now to exert any pressure~~ on the Diet sub-committee

for reversion ~~to what amount~~ to the original Government draft. It would ^{it seems,} ~~certainly~~ be unwise ^{to exert any pressure or} ~~to force~~ the committee to ^{make it} ~~accept~~ the same by referring directly to the intention of G.H.Q. Therefore, it is my earnest desire that ^{the amendment as proposed by the sub-} ~~the amendment~~ ^{G.H.Q. will find its way to approving the} ~~committee be approved by the G.H.Q.~~ long as it does not conflict

with

0572

with ^{fundamental} ~~matter of~~ principles

Yours sincerely,

0573

RA'-0078

0307

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

議の結果、総司を、却り原案を固守することと決し、
 此の如くして右決定は、其事、却りすべからず、本件
 以上の交渉の餘地なしと認められ、至つてこの
 結果、総司を却り原案を、是の儘、固守することとなつた。

0575

皇室財産問題の調査
 昭二、八、一五、各運、政政
 八月十五日午會、ヤ、イ、イ、大佐との會話の際、憲法部原案
 第八十條は、総司を却り原案の皇室財産の上、現花
 のを冠せるが、原案をとる、代り、は、経過的規定であるこ
 とを明したる、總司を却り原案の皇室財産の調査
 部令を補則の章に移すこと、一應、議が纏つたの
 であるが、(衆議院憲法審査会の憲法部原案に關し
 たい、イ、イ、大佐と會話の件(第三回)「(昭二)」、その後
 前記の方案に、イ、イ、イ、を鏡得せよと、イ、イ、大佐の會
 話によつて、白洲次長が、イ、イ、イ、代議を、山田政次郎
 長が、イ、イ、イ、大佐を、夫を、議部した、
 總司を却り原案の調査は、本問題に、イ、イ、イ、會話を用之、

藤田

0574

RA'-0078

0308

八月五日、ケイテイ入札、この時、ケイテイの責任に
 おいては、~~ケイテイ~~ 副除することとある。ケイテイ
 (蒙) 議院、憲法十委員、全は、二九より先、既に共同修
 正案を決定して、居たのであるが、~~ケイテイ~~ 議院、共同修
 正案を~~議院~~ 議院に共同修正案を決定した。

0578

外務省

皇室財産問題経過

八月五日、ケイテイ入札と合議(山田部長、委員)、小委員(共同修
 正案)を提示した。ケイテイ、先方の修正案、共同修
 正案、八月五日、ケイテイ入札、共同修(山田、委員)打合せ
 午後、ケイテイ入札、共同修(共同修)と合議(入札、山田、委員)
 八月七日、午前十時、全委員の氏を統訪(委員)
 午後、右下の多に、山田部長、共同修(共同修)
 (委員) 皇太子の財産、経費関係調査
 (大臣、大臣、共同修、共同修)
 (大臣、大臣、共同修、共同修)

0579

外務省

RA'-0078

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan



皇室財産問題に合する件

二一八七

昨亦、ケネディ大統領と合議の件は
閣下、入札に對する甚だしく、金庫事務相
告に際し、金庫は水産しと申し述べ、本七日午
出陣陸軍に面代を統括、ケネディ大統領のさうなと
ころを繰返して

(一) 入札に對する、金とケネディは自由を
の約束、原形を修正するにせよ、(二) 金庫の
正業は税金を押し切つて、ケネディは
多額の、証しをせよ、ケネディは、
ケネディは、ケネディは、ケネディは、
ケネディは、ケネディは、ケネディは、

外務省

0580

ケネディは、ケネディは、ケネディは、
ケネディは、ケネディは、ケネディは、
ケネディは、ケネディは、ケネディは、
ケネディは、ケネディは、ケネディは、

(一) All American Republics の解散
ケネディは、ケネディは、ケネディは、
ケネディは、ケネディは、ケネディは、
ケネディは、ケネディは、ケネディは、
ケネディは、ケネディは、ケネディは、

外務省

0581

RA'-0078

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

0311

大日本帝國政府

八月十五日、他方報告より、神則ニ移ス案ニ付郵報
 八月十四日、午後他方報告より、
 八月十五日、午後、他方報告より、山田部長ト Col. Kado
 午後、神則ニ移ス案ニ付郵報
 午後、山田部長ト Col. Kado
 八月十六日、午後、他方報告より、
 八月十六日、午後、他方報告より、
 八月十六日、午後、他方報告より、

八月十五日

八月十五日

八月十五日

八月十五日

八月十五日

八月十五日

八月十五日

八月十五日

八月十五日

八月十五日

八月十五日

八月十五日

(國定規格B5(21x25)紙)

0585

八月十五日、他方報告より、神則ニ移ス案ニ付郵報
 八月十四日、午後他方報告より、
 八月十五日、午後、他方報告より、山田部長ト Col. Kado
 午後、神則ニ移ス案ニ付郵報
 午後、山田部長ト Col. Kado
 八月十六日、午後、他方報告より、
 八月十六日、午後、他方報告より、
 八月十六日、午後、他方報告より、

外務省

0584

RA'-0078

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

0313

4

大日本帝國政府

○芦田委員長
 公的ノ財産トシテ國ニ屬スベキ皇室財産ト雖モ象徴タシ
 天皇ノ御地位ト不可分テ財産ハ苗葉通リ御使用ニテコトハ
 当然ト考ヘテ居リマスガ此是ニ関スル政府ノ御考ヘテ
 質シテ置キマス。

(國定規格B5(21×30cm))

0588

4

5

大日本帝國政府

○金森國務大臣
 第八十四條ニ依リマシテ皇室財産ハ國ニ屬スルコトナリマシモ
 改正憲法ニ基キマシテ天皇ノ公ケノ御地位ト密接不可分ナ
 關係ガアリマス。財産ハ苗葉通リ天皇ノ御權利トシテ引継キ
 其ノ御使用ニ供セラレヘキコトハ言フマテモナリ即チ当然ノ
 次第ト考ヘテ居リマス。

(國定規格B5(21×30cm))

0589

17

大日本帝國政府

又

○金本國務大臣

將來第八條ニ依リマシテ國會ノ議決ニ基イテ天皇ニ
讓リ渡セマスルモハ實際ニ於テ天皇ノ私有財産
トシテソノ讓リ渡シカ行ハレモト申ハレマスルノガ
斯様ナ財産ハ勿論オハ十四條ノ適用外ニアレモ
ト考ヘテ居リマス

(國定規格B5(21×25.7))

0591

6

大日本帝國政府

6

○菅田委員長

最後ニ改正案オハ條ニ依リ將來天皇ニ屬スルコトアルガ
財産ニツイテハオハ十四條ノ適用外ニアレト自明ノコト
ト考ヘマスガ政府ノ見解ハ如何デアリマスカ

(國定規格B5(21×25.7))

0590

RA'-0078

0315

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

秘

衆議院憲法小委員会の憲法修正案に關し
ケイデイス大佐と會談の件(第三回)

昭二一八一五 終連、政、政

憲法修正案第八十四條(皇室財産)の問題に關し、前回の會談に際し、ワイトムー代將及ケイデイス大佐から提案せられた
All property of the Imperial Household shall belong to the State,
and all expenses of the Imperial Household shall be appropriated by the State.

とする案に對して最初の部分を (All property now appropriated to

the Imperial Household) と改める案をもつて本十五日午前法制局佐

藤次長、終連山田政治部長及藤崎連絡官はケイデイス大佐(ハッシー氏及ゴルドン中尉同席)と會談した。

「當方案を提示したところ、ケイデイス大佐はすぐ蓋面をつくり「かりすれば現在の皇室財産は國に屬することになるが、すぐ

「現在の皇室財産」

外務省

0592

0593

又新しく皇室(Imperial Household)は從來と同じ様な巨大な財産を築き上げることが出来るのではないかと言ふ疑念が直ちに起つて來ることを免れ得ない」と述べたので、

佐藤次長より「現在の皇室財産を處理した後の將來のことについては、皇室への財産の譲渡は第八條により國會の議決に基かなければならず、皇室の經費は第八十四條で國會の議決を経るべきこととなつて居り、この二つの規定によつて貴方の言はれる様なことにならない様にチェックせられて居る」と應酬したところ

ケイデイス大佐は「第八條の Imperial House と言ふのは、平たく言へば Imperial Family 即ち天皇とその御家族、具体的に言へば天皇、皇后、皇太后、皇親女及皇兄弟位のとこゝを意味し、これ等と外部との財産の授受を制限して居るものである然るに第八十四條の Imperial Household は右の様は私的の意味の

外務省

RA'-0078

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

0317

Imperial House とは全く性質を異にする。それは宮内省の内
 輪と認められる評價によつても十数億の財産を擁し、数千の人
 員を被備して居る一つの巨大な economic enterprise の主体た
 る一つの entity を意味する。そしてこの様な存在は他の財閥
 と同様に解体しなければならぬと言ふことは聯合國側の確立
 した方針であることは御承知の通りである。さう言ふ意味に於
 いては従來の様な形の Imperial Household と言ふもの自体が解消
 せられてしまふとも言ふことと將來より」と述べたので
 更に當方より「日本文では第八條も第八十四條も同じく「皇
 室」となつて居り、英文における様な區別はない。即ち日本語
 の「皇室」は貴方の言はれる二つの意味をもつて居る。従つて
 第八條は、日本文の方が英文よりも制限が廣くなつて居る。更
 に又従來皇室財産を管理して來た宮内省なるものは今後なくな
 り、その代りに政府の中に皇室のことを掌る一の役所が設けら

外務省

0594

れることになつて居るが、この役所は前とは全く趣を異にする
 ものであつて、外務省或ひは終戦連絡事務局とか言ふ役所と全
 く同様の性質のものとなる次第であるから、かう言ふ役所に對
 して、國民から財産を提供すると言ふ様なことは、外務省に對
 してと同様に實際問題として考へられなほことである」と述べ
 た。
 これに對して當方は「それは判る。將來今日の如き皇室財産
 と言ふものは全然認められぬと言ふことは貴方のよく了解し
 て居られるところである。又我々は天皇及その皇族が私有財産
 をもつことを否定しようとは思はず、勲等を貧窮に陥れようと
 は絶対に考へて居ない。従つてお互ひに考へて居ることは全く
 同じである譯であつて、問題はそれを如何にうまく表現するか
 にある次第である。貴方は將來皇室が私有財産をもつことと迄禁
 ぜられることになることを恐れてこの様な修正意見をもつて來

外務省

0595

RA'-0078

0318

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

られたものと思ふが第八條、第八十四條の「皇室」なる用語を適當に改めることによつて、さう言ふ心配を除くことは出來な
いか」と述べたので

當方より「日本語としては「皇室」と言ふ言葉より外には考へられなから、條文の文句の修正では難しい。併し今貴方から述べられた様はこの憲法の實施によつて現在の如き皇室財産と言ふものは全くなくなつてしまふことになる譯であるからすべて皇室財産は國に屬する」と言ふ規定は全く經過的規定であると言ふことになる。當方の修正意見もこの點を明かにする意味に他ならぬ。従つてこれを他の經過的規定と同様第七章の補則の中に入れることにしては何うだらうか」と提案したところ

ケイダイス大佐は即座に「なるほどその通りだ。さうすることによつて、貴方の心配も自分の心配も解消されることになる

外務省

0596

し、それは妙案である」と全面的にこれに賛成した。

0597

外務省

RA'-0078

0319

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

以上は皇室財産の問題に関する議論の本筋であるが、先にもよ
つと稱れた後に、右に開示して「皇室」なる概念の性質及範囲
の問題が派生した。

イ Imperial House と Imperial Household との區別

カイダイス大佐は後者を皇室財産の所有者として法人の扱
いをも考へて居る。そして Imperial Household と Minis-
try of Imperial Household とを同一視して居る様なので、確め
て見たならば、果して「松平氏は Imperial Household の一員
ではなからし」と反問したので、兩者の區別をはつきり取
つて居るかのところが判つた。併し皇室財産なるものの法律關
係については、便宜上カイダイス大佐の考へ方に従つて、皇
室と重なりつゝの法人の様なものに属するものとして附をした。
Imperial House は天皇の私的を家族關係を意味し、公的な
一體としての Imperial Household と全く異なるものとする

外務省

0598

考へ方は、カイダイス大佐の思ひ付きではないであらうが、
その憲法草案の英文が、自ら資本考へ方で統一せられて居る
ものとば眼もられぬ。會議の際指摘した通り皇室典範は
Imperial House Law となつて居る。又第八十四條の後段には
allowances and expenses of the Imperial Household とある。こ
の後者のひびきは、會議の終り買氣が付いて、ちよつと
Imperial House に變へやうとしたがカイダイス大佐はハッソ
氏と「前段を補題に移し、その際その用語を殊更改めると疑
義を起す便がある」とを資本論を根據として、是の儘とするこ
とになつた。

ロ Imperial House の範圍

カイダイス大佐は五月三十一日附 SCAPIN-1398-A (皇族財
産取扱及皇族特權廢止方に関する件)の末尾の
"As used in this directive, the terms "Imperial Prince" & "Imperial
princess" do not include the Dowager Empress or the children of the

外務省

0599

RA'-0078

0320

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

Emperor.」を引用し、右に除外された範囲のものを指稱する名前は、いかかとの間ひ、又「この指令でも、例る様にマツタチノサトノ前は天皇及びその家族は特に保護しやうとは考へて居るが、例へば東久通宮殿下にも特別の保護を及ぼさうとは考へて居る」と述べた。

尚右に附し、ケイデイス大佐は「今度の皇族制度の廢止によつて、右の種々宮殿も廢止せられることにならるわけではなからしと雖も、皇族と華族の區別を辨へて置なはんと考へた。ケイデイス、皇族の意味の Prince と公卿の意味の Prince とは違ふこと、及び皇族の Prince は華族制度の廢止によつて影響せられるものではないことを説明した。

0600

外務省

皇室財産の問題が終つて、ケイデイス大佐から、英文テキストについて、日本文と出来る丈近くすることが望ましいと言ふこととで左の通り修正することになつた。

(一) 天皇の「國事に關する行爲」は、英文の方も *acts of the Emperor* で統一する

(二) 第六十九條 *enact cabinet orders to be executed* とする

(三) 第九十條 *Government... frame* を夫々 *Administration... enact* とする

(四) 第九十五條 *the Emperor or the Ministers of State* との間 *as well* を入れる

(英文では構文上天皇も *Minister of State* に入ると解せられるが日本文では「天皇又は攝政」と國務大臣の間に「及び」が入つて居るので、天皇は公務員の中に入らない様に解せられると思ふ、それなら英文の方も *as well* を入れた方がいいと言ふ譯である)

0601

外務省

RA'-0078

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

0321

尚前文の *The sovereignty of the people's will* は特に元の儘とするに諒解を得た。

外務省

0602

RA'-0078

0022

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

帝國憲法改正案審議順序 八月十五日(社)

第一讀會、續々

委員長報告

尾崎行雄君

第二讀會ヲ開クヤ否ヤヲ諮ラ

第二讀會

一、修正案ニ對スル趣旨辯明討論及採決

修正案趣旨辯明 原彪之助君(社)

討論

修正案ニ反對

修正案ニ賛成

北浦圭太郎君(自)
吉田安君(進)
白根久雄君(無)

起立

二、委員長報告ニ對シテ討論及採決

委員長報告ニ賛成

委員長報告ニ反對

北 吟吉君(自)
大養 健君(進)

片山 哲君(社)

林 平馬君(協)

大島 多藏君(新)

田中久雄君(無)

採決

一、委員長報告、修正

記名投票

二、其他、原案

第三讀會

第二讀會議決、通り決スルヤ否ヤ 起立

0603

大日本帝國政府

第九十回議會

帝國憲法改正案審議經過概要

(國定規格B5二空×三五種)

0605

- Art. 6, par. 2. --- appoint the chief judge of the Supreme Court ----
- Art. 9; par. 1. Aspiring sincerely to an international peace --- renounce forever war, as a sovereign right of the nation, or the ~~the~~ threat ---
- Art. 10. The conditions necessary for being a Japanese national shall ----
- Art. 14, par. 2. Peerage shall ----
- Art. 26, par. 2. --- insure that all boys and girls under their protection receive ^{ordinary} common education
- Art. 30. --- as provided by law
- Art. 79. --- shall consist of a chief judge and such number --- excepting the chief judge shall be appointed ---

分
二
十
八
日
司
令
部
通
知
乙
Mr. Hange
ト
連
絡

0604

RA'-0078

0324

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

大日本帝國政府

昭和二一、六、二。	提出	帝國憲法改正案審議經過概要
三一、六、五	本會議上程	吉田總理大臣趣旨辨明
"	北吟吉君(自由)	質疑
"	原夫次郎君(進步)	"
"	北浦圭太郎君(自由)	"
"	鈴木義男君(社會)	"
"	吉田安君(進步)	"
"	森戸辰男君(社會)	"
"	酒井俊雄君(協同)	"
"	安部俊吾君(新黨)	"
"	細迫兼光君(新黨)	"
"	布利秋君(民主)	"
"	野坂參三君(共產)	"

(國定規格B5 二六×三五種)

0606

大日本帝國政府

昭和二一、六、二。	質疑終了七三名の委員に付託	質疑終了
六、九	委員長理事五選	"
七一	吉田内閣總理大臣及公金森國務大臣説明	"
"	質疑北吟吉君(自由) 吉田安君(協同) 高橋英吉君(自由)	"
七二	黒田壽男君(社會) 原夫次郎君(進步) 北浦圭太郎君(自由)	"
七三	杉本勝次君(社會) 穂積七郎君(無所属) 大島多藏君(新黨)	"
七四	林平馬君(協同)	"
七五	赤澤正道君(民主) 野坂參三君(共產) 三浦廣之助君(自由)	"
"	山崎岩刀君(進步)	"
七六	神田博君(自由) 加藤シヅ子君(社會) 青木春助君(進步)	"
七八	上林山繁吉君(自由) 赤林三樹二君(社會) 酒井俊雄君(協同)	"
七九	竹谷源太郎君(無所属) 藤田繁(新黨) 菅田内君(自由)	"

以上七組に質疑終了、逐條審議に入ります。

(國定規格B5 二六×三五種)

0607

大日本帝國政府

昭和三十七年 實錄 自第三十條 至第三十七條	木村公平君(勳) 天野久君(進歩) 木島義雄君(自由)
及川規君(社會)	
武田平三君(自由) 井上徳命君(協同) 久夢庄三郎君(新光)	
左藤義詮君(自由) 越原七子君(協同) 小野孝君(自由)	
木村義雄君(自由) 棚橋小虎君(社會) 越原七子君(協同)	
酒井俊雄君(協同) 松澤兼人君(社會) 酒井俊雄君(協同)	
笠井重治君(無所属) 木島義雄君(自由) 鈴木周次郎君(進歩)	
木村公平君(自由) 山崎岩男君(進歩) 青木泰助君(進歩)	
田中伊三次君(無所属)	
青木泰助君(進歩) 中山榮一君(民生) 折木久君(進歩)	
田中伊三次君(無所属) 山崎岩男君(進歩) 木村公平君(自由)	
小野孝君(自由) 加藤宗平君(自由) 酒井俊雄君(協同)	
安部俊吾君(無所属) 原健三郎君(進歩) 森三樹二君(社會)	
笠井重治君(無所属)	

(國定規格B5 三×三五粒)

0610

大日本帝國政府

昭和三十七年 實錄 自第三十條 至第三十七條	三浦廣之助君(自由) 原健三郎君(進歩)
越原七子君(協同) 吉田安君(進歩) 吉田淳君(進歩)	
原健三郎君(進歩) 小島徹三君(自由) 山田浩三君(進歩)	
吉田安君(進歩) 吉田安君(進歩) 小島徹三君(自由)	
田中伊三次君(無所属) 小島徹三君(自由) 小野孝君(協同)	
原健三郎君(進歩) 林平喜君(協同) 大橋喜美子君(協同)	
田中伊三次君(無所属) 小島徹三君(自由) 大橋喜美子君(協同)	
野坂三三君(民生) 本田英作君(自由) 本田英作君(自由)	
吉田安君(進歩) 笠井重治君(無所属)	
原健三郎君(進歩) 山崎三樹二君(社會) 山崎岩男君(進歩)	
田中伊三次君(無所属) 小島徹三君(自由) 原健三郎君(進歩)	
山崎岩男君(進歩) 越原七子君(協同) 山崎岩男君(進歩)	
田中伊三次君(無所属) 原健三郎君(進歩) 小島徹三君(自由)	
大島久三郎君(新光) 原健三郎君(進歩) 田中伊三次君(無所属)	

(國定規格B5 三×三五粒)

0611

大日本帝國政府

昭和二、七、二二	自第七十四條 至第九十七條	井上徳命君(協同)塚田十一郎君(自由)田原春次君(社會)	山崎宏男君(進歩)武田信之助君(自由)大島多藏君(進歩)	木村公平君(自由)原健三君(進歩)	昭和二、七、二三	自第九十八條 至第一百條	(質疑者五)	補充質問委員長 芦田均君(自由)	昭和二、七、二五	小委員 芦田均君(委員長)外十三名上付託す	小委員會 第一回	昭和二、七、二六	頁二回	昭和二、七、二七	頁三回	昭和二、七、二九	頁四回	昭和二、七、三〇	頁五回	昭和二、七、三一	頁六回	昭和二、七、三一	頁七回	昭和二、七、三二	頁八回	昭和二、七、三三	頁九回
----------	------------------	------------------------------	------------------------------	-------------------	----------	-----------------	--------	------------------	----------	-----------------------	----------	----------	-----	----------	-----	----------	-----	----------	-----	----------	-----	----------	-----	----------	-----	----------	-----

(國定規格B5 三×三三三)

0612

大日本帝國政府

昭和二、八、一〇	小委員會 第十回	昭和二、八、一一	委員會 (修正可決)	(經過) 委員長 芦田均君	委員長 小委員會經過報告及修正案附帶決議說明	鈴木義男君(社會)(社會黨修正案說明)	討論 高橋泰雄君(自由)吉田安君(進歩)林平馬君(協同)	大島多藏君(進歩)相原義則(無所属)野坂參三君(共產)	菊地養之輔君(社會)	高橋泰雄君(自由)吉田安君(進歩)棚橋小虎君(社會)	林平馬君(協同)大島多藏君(進歩)相原義則君(無所属)	野坂參三君(共產)
----------	----------	----------	------------	---------------	------------------------	---------------------	------------------------------	-----------------------------	------------	----------------------------	-----------------------------	-----------

(國定規格B5 三×三三三)

0613

RA'-0078

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

0328

Article 9. Aspiring sincerely to an international peace based on justice and order, the Japanese people ~~renounce~~ forever renounce war as a sovereign right of the nation, and the threat or use of force as means of settling disputes with other nations.

Article 26. ... ^{ordinary} ~~the~~ common education.....

Mr Hauge, 幸

0615

9 大日本帝國政府											
昭和二十一年八月二十四日											
本會議 (修正議案)											
委員長 芳田均君 報告											
質疑 尾崎行雄君											
討論 北浦圭太郎君(自由) 菊地養之輔君(社會) 青木泰助君(進步)											
委員長報告に對する討論											
野坂參三君(無產) 北吟吉君(自由) 大養健君(進步)											
片山哲君(社會) 林平馬君(協同) 大島多藏君(新政)											
田中久雄君(無所屬)											
本會議 審查二十一日											
質疑者 十九名 延人員 百九十三名											
小委員會 協議 十二日											

10

0614

RA'-0078

0329

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

0617

憲法草案と外交問題(一)

「憲法第七條第五號に「全權委任狀及び信任狀を認證すること」とあるが

全權委任狀及び信任狀の發信者は誰か。

その根據は。

全權委任狀及び信任狀の發信者は天皇である。それは第一條の天皇は日本國の象徴であることに據る。このことは外國の大使及び公使を接受すること(第七條第九號)と對照する。このことは又立憲君主國に於ては何れも君主が全權委任狀及び信任狀を發し且君主が外國の大公使を接受する國際慣例にも基くものである。

尤も全權委任狀及び信任狀には天皇の署名のほか、外交事務に關する主務大臣たる外務大臣(外務大臣に對する全權委任狀には内閣總理大臣)の署名を必要とする。

外務省

0618

向その内閣記載さるる文言は「誰が全權を委任し、一本狀持參の者は誰の最も信任する者であるから、貴國元首においては、誰の身代りとして、接受せられたい」と記すのか。その根據は。

「朕が全權を委任し、一本狀持參の者は朕の最も信任する者であるから、貴國元首においては、朕の身代りとして、接受せられたい」といふ意味のことを記す。外交關係の處理は内閣の事務であるが、内閣又は内閣總理大臣が主格となることは國際慣例なく、又全權委任狀及び信任狀に國家の象徴としての天皇が署名する關係上「朕が」と記するのは當然である。

天皇であるとするれば認證はいかなる意味をもつか。又いかなる形式で行はれねばならぬか。認證がなければ無効か。

外交事務は内閣が行ふのであるから、全權委員及び大使及

外務省

RA'-0078

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

0331

公使は内閣が任命するのであるが、その任命は天皇の承認によつて初めて外部に對し有効となるのである。従つて天皇の承認がなければ、外國は全權委員と商議し又は大使公使を接受することを拒むことを得る。しかし、天皇の承認だけでは不充分であつて、外務大臣の署名がなければ完全でない。内閣又は總理の交替ある毎にこの兩種の文書は發信しなほすことを必要とするか。

副署した外務大臣又はその屬する内閣が交替してもこれらの文書を發信しなほす必要はないが、天皇代つたときにはその必要がある。

外務省

0619

同條第八號について

1) その他の外交文書といふ意味如何。

全權委任狀、信任狀、批准書以外に、法律に定められた外交文書には、國書その他の外交上の親書、領事委任狀、名譽領事委任狀、外領領事認可狀がある。

(註) 公式令第十三條に據れば右の何れにも外務大臣が副署することになつてゐるが、從來の慣例では大使及び駐蘭、加、瑞典、薩威、濠公使に對する信任狀には副署しなかつた。信任狀、外國大公使の信任狀(解任狀)も右に準じた。以上のやうに形式が一定してゐなかつたが、昭和十六年十二月二十九日決裁を以て、信任狀及び解任狀は相手國の慣例にかかはりなく、すべて國書型(國書、外務大臣副書を有す)に統一することとなり、大東亞戰爭中赴任した岡本駐瑞典公使、三谷、日高、

外務省

0620

RA'-0078

0332

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

佐藤各大使の場合には右新方針に轉つた。今後も之等文書には凡て外交事務處理の責任者たる外務大臣も署名(副署と謂ふは適當でない)すべきである。

副署とは副大戦の際の米國差遣石井特派大使、大東亞戰爭中のタイ國差遣廣田大使等の携行せるものを謂ひ、その他の親書とは即位通報、大統領就任通報に對する答翰等を指す(この場合には從來とも外務大臣が副署した)。

④批准書は誰が批准をするものか。即ち、名義人は誰か。

批准とは全權委員が署名捺印した條約につき、内閣より國會に同意を求め、それについて國家が當該條約は國內法上の手續を完全に了し従つて國家を有效に拘束するものであることを對外的に認むる行爲である。だから名義者は國家の象徴たる天皇である。

0621

外務省

⑤批准書に認證することはいかなる意味をもつか。その場合、場合に效力はいかになるか。

右に述べた通り、認證は條約に對し國會の同意が與へられその結果として當該條約が我國を拘束するに至ることを證明する行爲である。國會の同意があつても天皇の認證がなければ、對外的には未だ國家の意思は表示されなから、批准の効果を生じない。

0622

外務省

RA'-0078

0333

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

同條第九號について

(1) 外國からの全權委任状と信任状は誰にあてべきものか。

天皇にあてられる。

(2) 本號の接受の意味は、いかなることか。外國から我方宛てた信任状等の受領を含むか。

接受とは、外國の大公使を當該國の正式の代表者として之に一定の特権を認め且つ内閣との間に外交事務に關し往復することを認むることを意味する。天皇は信任状を受領しこれに對して答翰を發する。

(3) (省略)

(4) 接受の中にはアグレマンを含むか。それともアグレマンの實質は第六十九條第二號で内閣が處理することとなるか。

天皇は外國の差遣する大公使を接受するに止り、政治に關する権能を有しないから(第四條)、その人選について答

外務省

0623

見を述べるとは出来ない。それについて内閣限りで處理する

(註) 従来も外務省より省内省に内書を伺ふだけで、内閣を経て上奏御裁可の手續をとるやうなことはなかつた。

外務省

0624

0774

RA'-0078

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

條約の批准

曾てフランス第三共和國の大統領ポアンカレだつたと思ふが大統領は儀禮を掌る以外には何れの權限も持たない。これ程つまらぬ役目はないと言つた。その無力を慨歎した。そのフランスでも、官吏の任免、信任状及び全權委任状の付與、批准等外交に關する重要な國務はすべて、少くとも形式的には大統領の權限に屬してゐる。立憲君主制の標本のやうにいはれる英國でも、又主權在民を憲法に明定する君主國ベルギーでも同様である。スイス、ソ聯のやうに聯邦會議又は最高幹部會なる合議体が國家の最高機關である國でも變らない。内閣總理大臣が、大公使を任免したり、信任状全權委任状を付與したり、條約の批准をしたりする例は、山田博士の言はるる通り世界中どここの國にも見當らない。内閣總理大臣とやや似てゐるものに米國の大統領があるが、米國大統領は、行政府の長であると同時に國の元首であるから、當然前記の

二一〇七一七一五二

外務省

0626

權限を有するものであり、これを以て以上の例外とみなすことはできない。

憲法草案によれば、内閣總理大臣は國會が指名し、その指名に基いて天皇がこれを任命する（六三條、六條）。内閣總理大臣は國務大臣及び法律の定めるその他の官吏を任免する（六四條、七條五號）。内閣は條約を締結し國會の承認を経てそれを批准する（六九條三號）。そして天皇は、全權委任状、信任状、批准書及び領事委任状外國領事認可狀の如き法律の定めるその他の外交文書を認證する（七條五號、八號）。言ひ換へれば、天皇の任命した内閣總理大臣が全權委員、大公使その他の外交官領事官を任免し、條約を締結批准し、天皇はただその任免又は批准が憲法に行はれたことを證明するだけである。これは全く前例のない制度である。

外務省

0625

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

RA'-0078

0375

然し、内閣總理大臣は、天皇より任命された官吏であつて、勿論國家を代表する資格を有するものではない。對外的に國家を代表する天皇の認識がなければ、その任免又は批准は效力を發生しない。そこで對手國は、たとひ我國法上適法に任命された全權委員、大公使でも天皇の認識が欠けてゐる場合はこれとの商議又はその接受を拒み、又天皇の認識のない批准書の受領を拒むことができる。即ち批准については、國會の同意があり内閣が批准しても天皇の認識がなければ、對外的には未だ國家の意思は表示されないから批准の効果は發生しないのである。外交使節の任免については、理論は同じである。

もつとも、このことは内閣總理大臣が全權委任狀、信任狀及び批准書を付與するといふ意味ではないのであつて、内閣のなした任命又は批准に基いて、天皇が全權委任狀、信任狀及び批准書を作成し、その中で適法に當該全權委員若しくは大公使が任命され

外務省

0627

又は當該條約が批准されたことを認識するのである。内閣の任命した外交使節を外國に派遣するものは天皇であつて、それは外國の大公使の接受（七條九號）と表裏をなすものである。この點に關しては國際慣例に反してゐない。山田博士は議會における質問の中で、内閣總理大臣が信任狀を授與するのは大義名分を誤る虞あるのみならず、内閣の更迭毎に信任狀を更新しなければならぬのは蓋だ實際に適せざることと言はねばならぬと述べておられるが、その心配はないのである。

外國では信任狀には外務大臣が副署をしない國があるが、我國では從來とも法律の定める外交文書には必ず外務大臣が副署した。憲法草案でも天皇の行ふ國勢には内閣の助言と承認を要することとなつてゐるので（七條）、これらの外交文書には主管大臣たる外務大臣が、天皇の「認識」に副署して助言と承認の責任を明にしなければならぬ。

外務省

0628

RA'-0078

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

0335

條約の批准

曾てフランス第三共和國の大統領ポアンカレだつたと思ふが大統領は儀禮を掌る以外には何らの權限も持たない。これ程つまらぬ役目はないと言つた。その無力を慨歎した。そのフランスでも、官吏の任免、信任狀及び全權委任狀の付與、批准等外交に關する重要な國務はすべて、少くとも形式的には大統領の權限に屬してゐる。立憲君主制の標本のやうにいはれる英國でも、又主權在民を憲法に明定する君主國ベルギーでも同様である。スイス、ソ聯のやうに聯邦會議又は最高幹部會なる會議体が國家の最高機關である國でも變らなない。内閣總理大臣が、大公使を任免したり、信任狀全權委任狀を付與したり、條約の批准をしたりする例は、山田博士の言はるる通り世界中どここの國にも見當らない。内閣總理大臣とやや似てゐるものに米國の大統領があるが、米國大統領は、行政府の長であると同時に國の元首であるから、當然前記の

別添
山田三良氏
寄稿に対し
回答として
作成せしもの

山田三良氏
手紙お返し

二一〇七一七一五二

外務省

權限を有するものであり、これを以て以上の例外とみなすことはできない。

憲法草案によれば、内閣總理大臣は國會が指名し、その指名に基いて天皇がこれを任命する（一六三條、六條）。内閣總理大臣は國務大臣及び法律の定めるその他の官吏を任免する（一六四條、七條五號）。内閣は條約を締結し國會の承認を経てそれを批准する（一六九條三號）。そして天皇は、全權委任狀、信任狀、批准書及び領事委任狀外國領事認可狀の如き法律の定めるその他の外交文書を認證する（一七條五號、八號）。言ひ換へれば、天皇の任命した内閣總理大臣が全權委員、大公使その他の外交官領事官を任免し、條約を締結批准し、天皇はたゞその任免又は批准が適法に行はれたことを證明するだけである。これは全く前例のない制度である。

外務省

然し、内閣總理大臣は、天皇より任命された官吏であつて、勿論國家を代表する資格を有するものではない。對外的に國家を代表する天皇の承認がなければ、その任免又は批准は效力を發生しない。そこで對手國は、たとひ我國法上適法に任命された全權委員、大使でも天皇の承認が欠けてゐる場合はこれとの商議又はその接受を拒み、又天皇の承認のない批准書の受領を拒むことができる。即ち批准については、國會の同意があり内閣が批准しても天皇の承認がなければ、對外的には未だ國家の意思は表示されないから批准の効果は發生しないのである。外交使節の任免については理論は同じである。

もつとも、このことは内閣總理大臣が全權委任狀、信任狀及び批准書を付與するといふ意味ではないのであつて、内閣のなした任命又は批准に基いて、天皇が全權委任狀、信任狀及び批准書を作成し、その中で適法に當該全權委員若しくは大使が任命され

外務省

又は當該條約が批准されたことを承認するのである。内閣の任命した外交使節を外國に派遣するものは天皇であつて、それは外國の大使の接受（七條九號）と表裏をなすものである。この點に關しては國際慣例に反してゐない。山田博士は議會における質問の中で、内閣總理大臣が信任狀を授與するのは大義名分を顧る虞あるのみならず、内閣の更迭毎に信任狀を更新しなければならぬのは蓋だ實際に適せざることと言はねばならぬと述べておられるが、その心算はないのである。

外國では信任狀には外務大臣が副署をしない國があるが、我國では從來とも法律の定ある外交文書には必ず外務大臣が副署した憲法草案でも天皇の行ふ國勢には内閣の助言と承認を要することとなつてゐるので（七條）、これらの外交文書には主管大臣たる外務大臣が、天皇の「承認」に副署して助言と承認責任を明にしなければならぬ。

外務省

RA'-0078

0338

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

